地質学雑誌　第117巻　第9号（通巻1392号）付録 [redacted] 平成23年9月15日発行（毎月1回15日発行）

# 日本地質学会 News

Vol.14 No.9 September 2011

THE GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN 1893

## 地質学雑誌の投稿・査読システムが変わります！

地質学雑誌の投稿・編集システムが，現在のJ-Stageのシステム廃止に伴い，**10月1日よりScholarOne Manuscriptsに変更になります．**これまでのシステムに慣れ親しんでいた会員の皆様には，戸惑うことも多いであろうと想像します．一方で，このシステムはIsland Arcを始め多くの国際誌が採用していますので，かえって使いやすいと思われる会員の方々も多いのかもしれません．しかし，我々編集委員はまだ慣れておらず試行錯誤の段階です．最初の数ヶ月は何かとご迷惑をおかけすることになろうかと思いますが，よろしくお願いいたします．

新規投稿窓口のURLは10月1日以降に地質学会のホームページでお知らせいたします．なお，**現在査読・編集中の論文については，2012年3月まではJ-Stageでの編集**となります．

地質学雑誌編集委員会

### ［原稿をご準備中の方へ］

新システムでは，自動で査読用PDFが作成されますので，必ずしもPDFファイルにてアップロードしていただく必要はありません．doc（docx），xls（xlsx），eps，tiff，jpg等の形式でアップロードができます．ただし，文字化け，表の崩れ等が発生する可能性がありますので，アップロードした後は，投稿者本人がかならず確認するようにしてください．（投稿作業時に確認できます．）

投稿の手順についてはこちらを参照してください．

http://mc.manuscriptcentral.com:80/societyimages/kyo-hybrid-4/AuthorManual_Kyorin.pdf

### ［編集事務局より］

これまで査読者としてご協力いただいた方は，予め事務局にてユーザー登録を行っております．運営開始後または登録後にメールにてご案内いたしますが，現在ご利用中のログインID，パスワードとは異なりますので，お間違いないようご注意ください．

# 日本地質学会*News*

## Vol.14 No.9 September 2011

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル　６Ｆ
**編集委員長　内藤一樹**
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp


# *Contents*


**告示　一般社団法人日本地質学会2012年度代議員および役員選挙について** ……2
2012年度代議員および役員選挙実施要領
代議員選挙にかかわる，正副会長候補者の意向調査について
選挙の種別/選挙スケジュール/代議員立候補届け/監事立候補届け
一般社団法人日本地質学会選挙規則/一般社団法人日本地質学会選挙細則/一般社団法人日本地質学会選挙管理委員会規則

**2011年度一般社団法人日本地質学会各賞候補者募集について** ……11
一般社団法人日本地質学会各賞選考規則/各賞選考委員会規則

ご案内 ……14
東海地震防災セミナー2011のお知らせ［第28回］（土　隆一）/原子力総合シンポジウム2011（共同主催日本地質学会）（田中　知）/ZMPC2012（International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2012）（犬丸　啓）

公募 ……14
高知大学教育研究部自然科学系理学部門教員公募（助教）/北海道大学大学院自然史科学部門 地球惑星システム科学分野教員公募/千葉大学大学院理学研究科・地球生命圏科学専攻地球科学コース　教員公募/岡山大学大学院自然科学研究科教員の公募/山口大学大学院理工学研究科地球科学分野教員公募

各賞・研究助成 ……16
平成24年度笹川科学研究助成の募集/山田科学振興財団2012年度研究援助候補推薦

紹介 ……17
賢治と鉱物―文系のための鉱物学入門―　加藤碩一・青木正博著（岩松　暉）

Island Arc日本語要旨（Vol.20　Issue 3）……18

院生コーナー ……20
*XI* International Ichnofabric Workshop（Spain, July 1-5）参加報告（泉賢太郎）

支部コーナー ……22
東北支部：東北支部2009～2010年度総会と個人講演会のお知らせ/関東支部：城ヶ島巡検のご案内（第２報）

学会記事 ……23
一般社団法人日本地質学会2010年度第４回理事会議事録/一般社団法人2011年度第１回理事会議事録/2010年度第９回執行理事会議事録/2010年度第10回執行理事会議事録/2010年度第11回執行理事会議事録/2010年度第12回執行理事会議事録/2011年度第１回執行理事会議事録

会員の声 ……31

訃報 ……32
追悼　安間　恵さんのご逝去を悼む（佐藤　武）

CALENDAR ……33

会員名簿訂正・変更カード ……34

巻末　会費口座振替依頼書


## 表紙紹介

### 自然のオブジェ（上）

（宮崎県延岡市安井（やすい）海岸）

四万十層群中の北川層（古第三紀始新世）中の砂岩頁岩互層箱形褶曲をしている．推定重量約12トン近くの崖からの転落物と見られる．一番近いところで水平距離20mぐらい，転落時期推定昭和初期の頃かそれ以前．ただし判定すべき資料なし．現在でも崖には横臥褶曲のはっきり見える岩体がかなりある．

### 生命力の争い（下）

場所も地層も上と同じ．写真のように道路脇にある．植物はシイの木の一種，その生命力のたくましさに驚かされるが，一方横臥褶曲も見事である．こちらは桁違いの生命力を感じさせる．砂岩層は逆転している．

（足立　富男）

## 事務局営業カレンダー

お休み　＊印は振替休日です

9月/September

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30* | |

10月/October

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23/30 | 24/31 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |

※9/9-11：学術大会のため事務局不在


印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都千代田区外神田６－３－３

告　示

# 一般社団法人日本地質学会
# 2012年度代議員および役員選挙について

一般社団法人日本地質学会定款ならびに選挙規則・選挙細則に基づいて，代議員および役員（監事，理事）選挙を実施いたします．選挙規則類を掲載するとともに，選挙実施の要点について以下に記します．

なお，会長（法人の代表）並びに副会長は，法人法に基づき代議員（社員）の中から選出された理事によって構成される理事会において，理事の中から選出します．ただし，理事会からの委託により，当選挙管理委員会が正・副会長への立候補の意思のある方について，代議員選挙と併せて会員の意向調査を実施いたします．このことについては，理事会からの案内（別記）を合わせてご覧ください．

1．選挙管理委員会が実施する選挙は，正会員の直接選挙による代議員の選出と，その代議員の互選による理事の選出および代議員の選出による監事の選挙です．
2．選挙人および被選挙人は，一般社団法人日本地質学会の正会員（全個人会員）に限ります．正会員は，１人１個の選挙権があります．
3．選挙は２年ごとに実施し，全代議員（社員）および役員（理事）を選出（改選）します．
4．代議員および理事の任期は２年，今回選出される方は，2012年度総会で選任され，2014年度の総会までが任期となります．
5．監事の任期は４年，今回選出される方は，2012年度総会で選任され，2016年度の総会までが任期となります．
6．代議員の選挙においては，全国区と地方支部区があります．地方支部区については，各自の所属している支部区についてのみ，立候補ならびに投票の権利があります．
7．立候補者数が定員を超えない場合は，無投票当選といたします．ただし，代議員地方支部区においては，地方支部区選出理事を選出しなければなりませんので，定数を超えない場合でも投票をします．

その他，選挙の概要については以下の実施要領をご覧ください．また，投票に関する事務的なことや投票の仕方などにつきましては，投票用紙発送の際にお知らせいたします．

2011年９月９日
日本地質学会選挙管理委員会　委員長　兼子尚知
委員　氏家恒太郎・高橋　聡・守屋和佳・和仁良二

---

## 2012年度代議員および役員選挙実施要領

**1．代議員選挙日程**（選挙人，被選挙人とも正会員）
立候補受付期間　10月11日（火）～11月10日（木）
*最終日18時必着
選挙広報・投票用紙の発送　11月25日頃までに届くよう郵送します．
選挙活動期間　11月28日（月）～12月18日（日）
投票期間　11月28日（月）～１月5日（木）
*最終日消印有効
開票日時　１月13日（金），10時より
学会事務所にて立会人のもと，選挙管理委員会が行う．
選挙結果報告　開票事務処理後，速やかにホームページ，メルマガ，News誌に掲載する．

**2．理事の選挙日程**（選挙人，被選挙人とも代議員）
立候補受付期間　１月23日（月）～２月10日（金）
*最終日18時必着
選挙広報・投票用紙の発送　２月18日（土）までに届くよう郵送します．
選挙活動期間　２月20日（月）～２月26日（日）
投票期間　２月20日（月）～３月８日（木）
*最終日消印有効
開票日時　３月９日（金）　予定
選挙結果報告　開票事務処理後，速やかにホームページ，メルマガ，News誌に掲載する．

**3．監事の選挙日程**（選挙人は代議員，被選挙人は会員および非会員）
立候補受付期間　10月11日（火）～２月10日（金）
*最終日18時必着
選挙広報・投票用紙の発送　２月18日（土）までに届くよう郵送します．
選挙活動期間　２月20日（月）～２月26日（日）
投票期間　２月20日（月）～３月８日（木）
*最終日消印有効
開票日時　３月９日（金）予定
選挙結果報告　開票事務処理後，速やかにホームページ，メルマガ，News誌に掲載する．

**4．代議員の立候補**
1）代議員の定数は全国区100名・地方支部区100名，総数200名です．地方支部区は得票順，全国区は得票順および階層別定員充足数を考慮して選出します．
2）各地方支部区の定数は，2011年８月９日の支部会員数により100名を比例配分しました．
北海道地方区　（５）名（北海道）
東北地方区　（７）名（青森，秋田，岩手，山形，宮城，

福島）
関東地方区　（42）名（茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川）
中部地方区　（17）名（新潟，長野，山梨，静岡，富山，石川，福井，岐阜，愛知）
近畿地方区　（11）名（滋賀，奈良，京都，三重，大阪，和歌山，兵庫）
四国地方区　（４）名（徳島，香川，高知，愛媛）
西日本地方区　（14）名（岡山，広島，鳥取，島根，山口，福岡，佐賀，熊本，長崎，大分，宮崎，鹿児島，沖縄）

３）代議員地方支部区へ立候補する方は，登録住所の県別により該当する地方支部区に立候補してください．全国区は制限がありませんので，どの地域からでも出ることができます．

**５．理事の立候補**

１）理事の選挙人および被選挙人は，当該選挙で選出された代議員です．

２）理事の定数は50名です．50名のうち７名は地方支部選出理事として，各地方支部区の最上位当選者を１名ずつ無投票で選出します．残り43名は全国区選出代議員の中から立候補していただき，代議員による選挙を行い，得票順および階層別定員充足数を考慮して選出します．

**６．監事の立候補**

監事の定数は２名です．会員からの立候補者を１名，代議員の選挙により選出いたします．残る１名は会員外から執行理事会が推薦し，代議員による選挙はいたしません．

**７．立候補の届出について**

１）立候補締切日は以下のとおり，いずれも18時必着とします．

代　議　員　11月10日（木）
理事・監事　２月10日（金）

２）立候補届

代議員，理事，監事いずれも立候補届は所定の書式（別途掲載）により，選挙管理委員会に郵送またはE-mailで送付してください（持参不可）．書式は，Webサイトからダウンロードすることもできます．（http://www.geosociety.jp/）立候補は自薦および他薦のいずれも可とします．他薦の場合は，「候補者推薦承諾書」を添付してください．

＜郵送の宛名＞
〒101-0032　東京都千代田区岩本町２-８-15　井桁ビル
一般社団法人日本地質学会選挙管理委員会
＜E-mail＞　選挙管理委員会 main@geosociety.jp
件名：選挙立候補届

３）立候補届受領書の発行

立候補届を受け取りましたらE-mailまたは郵便はがきにより，立候補者に受領書を発行します．

４）正・副会長に立候補する意思のある方は，マニフェストを提出してください．

代議員立候補者で，代議員，理事と選出されたのち，正・副会長に立候補する意思のある方は，会員による意向調査の資料として，代議員立候補届に加えて，完全版下用マニフェストを作成し添付してください．

**＜マニフェストの作成について＞**

Ａ４判１ページ（タテ形）とし，内容の構成は自由です．配布用はモノクロ印刷のみ，Webサイトにはカラーでの掲載もできます．版下はモノクロとカラーの両方の提出が可能です．ただし，モノクロとカラーの違いによる表現の変化・変更は許容の範囲としますが，文言等の表記内容はモノクロ版，カラー版とも同一とし，変更は認めません．また，学会の公式ロゴおよび出版物等は，マニフェストに使用しないでください．

以上

**会員各位**

## 代議員選挙にかかわる，正・副会長候補者の意向調査について

一般社団法人日本地質学会理事会

一般社団法人日本地質学会の2012年度代議員ならびに役員選挙について，選挙管理委員会による告示が本号に掲載されました．会員各位におかれましては，地質学会の運営に対し十分に関心をお持ちいただき，積極的にご参加とご協力をいただきますようお願い申しあげます．

さて，法人の代表理事は，理事会において理事の中から選出するということが，法律によって定められ，本学会におきましても定款上はそのように定めております．しかしながら，これまでの長い歴史と法人化を検討する中での会員の意向を踏まえ，会長および会長の補佐役である副会長の選出においては，会員の意向を諮ることができるよう，代議員選挙に付随することとして，選挙規則に盛り込みました．会員の意向が直接，選出につながるものではありませんが，理事会として正副会長を選出する際の，重要な参考にさせていただくことといたしました．具体的には，定時に実施される選挙におきまして，全国区代議員（および理事）の立候補者の中で，正・副会長への立候補の意思を示した方には，会員に向けてのマニフェストを公表していただき，それによって候補者に対する会員の意向を調査するというものです．

なお，この意向調査については，選挙管理委員会が管理する代議員選挙とは手続きを異にするものではありますが，学会の代表者の選出にかかわって，全会員の意向を伺うということの性質上，その公正さを確保するためにも，選挙管理委員会の下で「意向調査」として実施いたします．つきましては，本号掲載の「選挙告示」にありますように，本意向調査を代議員選挙と同時に実施いたしますので，なにとぞよろしくご理解とご協力のほど，お願い申し上げます．

# 一般社団法人日本地質学会選挙

## Ⅰ．選挙管理委員会によって行われる選挙

| | 選挙 | 選出方法 | 定数 | 選挙人 | 被選挙人 | 階層指定の定数 | | 候補者が定数どおりか定数未満のとき |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 代議員選挙　地方区 | 投票 | 100 | 正会員 | 正会員 | なし，各地方支部区得票順 | | 理事選出の順位付けのため投票 |
| | 代議員選挙　全国区<br>定数合計　200名<br>＊【正・副会長候補者の意向投票】<br>予め立候補の意思表示をし，<br>マニフェストを提出した代議員<br>候補者 | 投票 | 100 | 正会員 | 正会員 | 大学（付属博物館）<br>小中高（教育センター）<br>官公庁（公安・独法・博物館）<br>会社（財・社法人）<br>院生（研究生）<br>上記指定以外で得票順 | 12<br>12<br>12<br>12<br>4<br>48 | 投票なし |
| 2 | 理事選挙<br>定数合計　50名 | 指定 | 7 | — | — | なし，各地方支部区１位得票代議員 | | — |
| | | 投票 | 43 | 当選全代議員 | 全国区選出代議員<br>（正・副会長候補意思表明者も含まれる） | 大学（付属博物館）<br>小中高（教育センター）<br>官公庁（公安・独法・博物館）<br>会社（財・社法人）<br>院生（研究生）<br>得票順 | 6<br>6<br>6<br>6<br>3<br>16 | 投票なし |
| 3 | 監事選挙<br>定数合計　2名 | 投票 | 1 | 代議員 | 正会員 | なし | | 投票なし |
| | | 指定 | 1 | 理事会の指名推薦 | 非会員 | なし | | — |

## Ⅱ．理事の互選によって行われる選挙

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 会長選挙<br>副会長選挙 | 承認又は<br>投票 | 1<br>2 | 当選理事全員 | 意思表明した理事 | なし | | 代議員・理事選挙の意向投票を尊重 |
| 2 | 執行理事選挙 | 投票 | 15 | 当選理事全員 | 会長・副会長選出以外の理事 | なし | | 投票なし |
| 3 | 理事会正・副議長 | 投票 | 2 | 当選理事全員 | 上記選出者以外の理事 | なし | | 投票なし |

## 選挙スケジュール

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2011/9月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |
| | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 選挙告示 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | | |
| 10月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |
| | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | |
| | | | | | | | | | | | 代議員・監事立候補届け期間 | | | | | | | | | | | （監事のみ立候補届け期間　10月10日～2月10日） | | | | | | | | | |
| 11月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |
| | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 委員会14時～ | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | | |
| | 代議員・監事立候補届け期間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 投票用紙送付 | | | | | | | 選挙活動期間 | | | | |
| 12月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |
| | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
| | 選挙活動期間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 代議員選挙投票期間 | | | | | | | | | | | | | |
| 2012/1月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |
| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 開票10時～ | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 選挙告示 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | |
| | 代議員選挙投票期間 | | | | | | | | | | | | | 開票・結果開示 | | | | | | | | | 理事立候補届け期間 | | | | | | | | | |
| 2012/2月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | | | |
| | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | | | |
| | 理事立候補届け期間 | | | | | | | | | | | | 投票用紙送付 | | | | | | | 選挙活動期間 | | | | | | | | | | | | |
| | （監事のみ立候補届け期間　10月10日～2月10日） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 理事・監事選挙投票期間 | | | | | | | | | | | | |
| 2012/3月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |
| | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 開票日？ | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
| | 理事・監事選挙投票期間 | | | | | | | | | | | 開票・結果開示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

◎E-mail送付可，郵送の場合はA4判（タテ）の大きさでご提出下さい．記入枠は適宜広げてください．

# 一般社団法人日本地質学会　代議員立候補届け

※　全項目を必ず記入してください．　　提出日　　年　　月　　日

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 立候補者氏名 | | | | | E-mail　Address |
| 立候補の区分 | | 全 国 区 | | 地方支部区 | ＊全国区，地方支部区のどちらか一方を選び，左欄に○を記入して下さい． |
| 所属支部区：支部名 | 支部名： | | | | ＊地方支部区の方は，自分の所属支部を左欄に記入して下さい．（北海道　東北　関東　中部　近畿　四国　西日本） |
| 自薦・他薦の別 | | 自薦 | | 他薦 | ＊自薦，他薦いずれか一方の左欄に○を記入して下さい． |
| 他薦：推薦者氏名 | ＊他薦の場合のみ,推薦者氏名を記入して下さい． | | | | |
| 立候補者所属機関 | ＊所属先がない場合は「なし」としてください． | | | | |
| 立候補者所属階層 | 階層名： | | | | ＊該当する所属階層を左欄に記入して下さい．（大学　小中高　官公庁等　会社　大学院生　その他） |
| 立候補の抱負または推薦文（120文字以内）<br>＊推薦文の場合は推薦人名を文章の最後につけてください．それも含め全文字数120字以内で書いて下さい． | | | | | |

## 会長・副会長への立候補意思表示

※全国区代議員立候補者のうち，正・副会長に立候補する意思のある方は，下記に記入して，マニフェストを添付してください．マニフェストは，モノクロ版およびカラー版のいずれか，または両方を添付することができます．

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 立候補の意思 | | 会長 | | 副会長 | ＊立候補意思のあるどちらか一方の左欄に○を記入して下さい． |
| 添付マニフェスト | | モノクロ版 | | カラー版 | ＊添付するものの左欄に○を記入して下さい． |

選挙管理委員会　受付日　　月　　日

※他薦で立候補される方は推薦承諾書に自署・捺印してください．E-mail の場合はPDFでご提出下さい．この部分のみ別紙でも可．

## 候 補 者 推 薦 承 諾 書

私は，一般社団法人日本地質学会の代議員候補者となることを承諾いたします．

氏名（自署）　　㊞

選挙管理委員会　受付日　　月　　日

◎ E-mail送付可，郵送の場合はA4判（タテ）の大きさでご提出下さい．記入枠は適宜広げてください．

# 監事立候補届け

※ 全項目を必ず記入してください．　　提出日　　年　　月　　日

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 立候補者氏名 | | | | | | E-mail Address | |
| 自薦・他薦等の別 | | 自薦 | | 他薦 | | 理事会推薦 | ＊左記の該当するいずれかの左欄に○を記入して下さい． |
| 所属機関名 | ＊所属先がない場合は「なし」としてください． | | | | | | |
| 立候補の抱負または推薦文（200文字以内）<br>＊推薦文の場合は推薦人名を文章の最後につけてください．それも含め全文字数200字以内で書いて下さい． | | | | | | | |

# 候 補 者 推 薦 承 諾 書

※他薦および理事会推薦で立候補される方は推薦承諾書に自署・捺印してください．E-mail の場合はPDFでご提出下さい（別紙提出も可）．

私は，一般社団法人日本地質学会の監事候補者となることを承諾いたします．

氏名（自署）　　㊞

## 一般社団法人日本地質学会選挙規則

（目的）
第１条　一般社団法人日本地質学会定款（以下定款という）第14条にもとづいて本規則を定める．

（規則の変更）
第２条　この規則の変更は，理事会の議決によって行い，総会に報告し承認を求める．

（選挙の実施）
第３条　代議員ならびに役員の選出作業は，別途定める一般社団法人日本地質学会選挙細則（以下選挙細則という）に則り，選挙管理委員会が行う．

（代議員選挙）
第４条　代議員選挙は正会員による無記名投票とし，２年ごとに全定数を改選する．
２　代議員の選挙定員は，地方支部区100名，全国区100名からなるものとする．
３　各地方支部区の定員は，選挙告示１ヶ月前の各支部の正会員数に応じて比例配分する．定員確定後に会員の移動等のため届出所属が変わった場合でも，次期選挙までの地方支部区の定員割り当て数は変更しない．また，そのことにより実質減数となる地方支部区の定員補充は行わない．
４　代議員候補者は正会員とし，自薦および本人の承諾書を付帯する他薦とする．立候補者は別途定める選挙細則に則り，参考事項を記した立候補届けを所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない．立候補届の提出にあたり，選挙管理委員会は全国区代議員候補者の中で会長・副会長立候補の意図のある正会員の意思表示を，別途定める方法により受け，代議員選挙活動期間開始前に全会員に開示することとする．
５　全国区選出代議員の選出にあたっては，付表の所属別定員充足数を満たすこととする．
６　選挙管理委員会は，選挙細則に則り，結果を開示するとともに総会に報告しなければならない．
７　選挙管理委員会の報告を受けた総会において代議員選挙結果は確定する．
８　当選後に地方支部区選出代議員の移動や所属別定員充足数票の組織の変更等により，届け出所属が変わった場合には，当該代議員の選出地方支部区が変更される．
９　代議員が任期中に何らかの理由で欠員となった際には，地方支部区選出代議員の補充に際しては次点者，全国区選出代議員の補充に際しては付表の所属別定員充足数を満たす次点得票者を繰り上げる．次点者が存在しない場合には欠員とする．

（役員選挙）
第５条　役員選挙は理事および監事を選出するものとし，代議員による無記名投票により，２年ごとに全定数を改選する．
２　理事の選挙定員は50名，監事は２名とする．
３　理事の定員のうち，各代議員地方支部区から代議員選挙得票数上位１名を地方支部選出理事とする．
４　理事候補者はその年度に選出された全国区代議員とし，候補者は別途定める選挙細則に則り，参考事項を記した候補者届けを所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない．
５　監事候補者は，理事会が推薦する者と会員からの立候補者を対象とし，理事会および候補者は別途定める参考事項を記した候補者届けを，所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない．
６　当選理事の決定の際には，定員にいたる残りの選出数に対しては，付表の所属別定員充足数を満たすこととする．
７　選挙管理委員会は，選挙細則に従って，結果を開示するとともに総会に報告しなければならない．
８　選挙管理委員会の報告を受けた総会において役員選挙結果は確定する．
９　当選後に地方支部区選出理事の移動や所属別定員充足数票の組織の変更等により，届け出所属が変わった場合には，当該理事の選出地方支部区が変更される．
10　理事が任期中に何らかの理由で欠員となった際には，地方支部区選出理事の補充に際しては次点者，全国区選出理事の補充に際しては付表の所属別定員充足数を満たす次点得票者を繰り上げる．次点者が存在しない場合には欠員とする．
11　監事のいずれかが任期中に何らかの理由で欠員となった際には，選挙による次点者を繰り上げ，次点者が存在しない場合には理事会が後任を推薦し，総会での承認を得る．

（無投票選挙の指定）
第６条　代議員の選挙にあたり，立候補者数が定数を越えない場合でも選挙を実施し，投票は行うものとする．
２　役員選挙にあたり，立候補者数が定数を越えない場合には，無投票当選とする．

（選挙実施細目）
第７条　定款ならびに本規則に定められたもの以外の，選挙の実施手続き等については，別途定める選挙細則および選挙管理委員会規約によるものとする．

附則
（発足時の代議員）
　2010年度選挙が実施されるまでの代議員には，任意団体日本地質学会の2008年度代議員があたるものとする．
（発効）
本規則は，2009年５月17日から施行する

付表

| 所属 | 備考 | 最低充足数全国区 | |
|---|---|---|---|
| | | 代議員 | 理事 |
| 大学 | 大学付属博物館を含む | 12 | 6 |
| 小中高 | 教育センター等を含む | 12 | 6 |
| 官公庁等 | 公団，行政法人，博物館等を含む | 12 | 6 |
| 会社 | 社団，財団，NPO法人等を含む | 12 | 6 |
| 大学院生 | 研究生を含む | 4 | 2 |

## 一般社団法人日本地質学会選挙細則

（目的）
第１条　一般社団法人日本地質学会選挙規則（以下選挙規則という）第３条に則り，代議員ならびに役員選挙の実施手続きを本細則に定める．

（規則の変更）
第２条　この細則の変更は理事会において行い，総会に報告する．

（選挙管理委員会）
第３条　代議員ならびに役員の選挙は，定款，選挙規則，

本細則に基づき選挙管理委員会が行う．
２．選挙管理委員会は，選挙実施概要告示の２カ月以上前までに設置されなければならない．
３．選挙管理委員会は，別途定める選挙管理委員会規則に基づいて運営されるものとする．

（開票立会人および立ち会い）
第４条　代議員および役員選挙においては，開票立会人２名を置く．開票立会人は，任期中の役員および代議員，被選挙人を除いた正会員の中から，執行理事会が選出する．
２．開票立会人は選挙管理委員会の行う開票作業に，終始１名以上が立会わなければならない．開票立会人は当選者の決定を確認し，選挙管理委員会が作成する総会報告書に記名・捺印するものとする．
３．開票立会人は，開票作業を行ってはならない．開票ならびに票の効力判定を注意深く見守り，疑義が生じたときはただちに選挙管理委員長に申し出て，疑義の解消をはかる．
４．あらかじめ選挙管理委員会の許可を得た正会員は，開票に立ち会うことができるものとするが，開票作業を行ってはならない．疑義が生じたときはただちに開票立会人に申し出る．

（代議員選挙の告示）
第５条　選挙の実施概要は，立候補受け付け開始の１か月以上前に，日本地質学会News誌ならびにWEBサイト等を通じて，会員に告示しなければならない．また，必要に応じて予備的告示を行うものとする．
２．選挙管理委員会は告示に先立ち，当該年度の代議員および役員の選挙に関し，選挙スケジュール，その他必要事項の確認と決定を行い，当該選挙の実施概要として執行理事会に提示し，承認を受ける．

（代議員の立候補届および受理）
第６条　代議員に立候補する正会員は，所定の参考事項を記した立候補届を期日までに選挙管理委員会に提出しなければならない．
２．立候補届等は所定の書式を用い，郵送または持参，電磁的方法のいずれかによるものとする．
３．立候補届には１）全国区・地方区の別，２）自薦・他薦の別，３）立候補者氏名，４）所属先，５）所属階層，６）他薦の場合は推薦者氏名，７）立候補の抱負または推薦文，の参考事項を記すものとする．
４．他薦による立候補者の場合は，本人の承諾書を添付するものとする．
５．全国区の代議員立候補者のうち，会長・副会長の立候補の意図があるものは３項に加えてその意思表示を記すものとする．また，参考書類として所定の書式によるマニフェストを添付しなければならない．
６．立候補届の受付期限内であれば書類の差し替え，修正は随時できるものとする．

第７条　選挙管理委員会は立候補届の内容および添付書類を確認し，立候補者本人に受理書を発行する．届け出内容等に明らかな不備が認められる場合には，随時その確認と修正を求めることができるものとする．

（代議員立候補者名簿・参考書類の開示）
第８条　選挙管理委員会は速やかに立候補者名簿を作成し，地方区においての投票の有無を確定する．
２．立候補者名簿および参考書類は投票用紙とともに正会員に送付し，WEBサイト，News誌においても開示するものとする．

（代議員選挙の投票）
第９条　投票権は，正会員１名につき１個とし，投票は所定の投票用紙と封筒を用い定められた期間内に，郵送により行うものとする．

（選挙活動）
第10条　代議員立候補者ならびに選挙管理委員以外の正会員は，定められた期間内に限り選挙活動を行うことができる．選挙活動は公正，適切な範囲で行い，倫理綱領に照らし節度あるものでなければならない．
２．行き過ぎた選挙活動や選挙活動によるトラブルがあったと認められる場合，または会員からの訴えがあった場合は，選挙管理委員会が真偽の確認および調査を行い，理事会に報告して解決を図る．

（代議員選挙の開票および結果の開示）
第11条　選挙管理委員会は投票期間終了後，開票立会人の立ち会いのもとで速やかに開票を行い，選挙規則に則って当選者の決定を行うものとする．
２．開票結果を総会報告書として作成し，立候補者にも通知する．WEBサイト，News誌においても速やかに開示するものとする．

（役員選挙の告示と開示）
第12条　選挙管理委員会は，代議員選挙の結果に基づく理事と監事の選挙の実施概要を，当選した全代議員に告示し，WEBサイトにおいても開示するものとする．

（理事の立候補届）
第13条　理事の選挙は，理事の定数50名から選挙規則第５条第３項に定める地方支部選出理事を除いた数を，全国区の代議員から選出するものとする．
２．立候補届は所定の書式を用い，１）自薦・他薦の別，２）立候補者氏名，３）所属先，４）他薦の場合は推薦者氏名，５）立候補の抱負または推薦文を記し，電磁的方法により期日までに選挙管理員会に提出しなければならない．
３．他薦による立候補者の場合は，本人の承諾書を添付するものとする．

（監事の立候補届）
第14条　監事の選挙は，選挙規則第５条第５項に従い，当選代議員以外の正会員から１名，理事会推薦者（会員外）から１名を選出するものとする．
２．立候補届は所定の書式を用い，１）自薦・他薦の別，２）立候補者氏名，３）所属先，４）推薦者氏名，５）立候補の抱負または推薦文を記し，電磁的方法により期日までに選挙管理員会に提出しなければならない．
３．理事会推薦候補者および他薦の場合は，本人の承諾書を添付するものとする．

（役員選挙立候補届の受理と立候補者名簿の開示）
第15条　選挙管理委員会は立候補届の内容を確認し，立候補者本人に受理書を発行する．届け出内容に明らかな不備が認められる場合には，随時その確認と修正を求めることができるものとする．

第16条　選挙管理委員会は立候補受け付け終了後，速やかに立候補者名簿を作成し投票用紙とともに，当選した全代

議員に送付する．立候補者名簿はWebサイト，News誌においても開示するものとする．

（役員選挙の投票および選挙活動）
第17条　投票権は，代議員１名につき１個とし，投票は所定の投票用紙と封筒を用い，定められた期間内に郵送により行うものとする．

第18条　役員立候補者，代議員ならびに選挙管理委員以外の正会員は，定められた期間内に限り選挙活動を行うことができる．選挙活動は公正，適切な範囲で行い，倫理綱領に照らし節度あるものでなければならない．
２．行き過ぎた選挙活動や選挙活動によるトラブルがあったと認められる場合，または会員からの訴えがあった場合は，選挙管理委員会が真偽の確認および調査を行い，理事会に報告して解決を図る．

（役員選挙の開票および結果の開示）
第19条　選挙管理委員会は投票期間終了後，開票立会人の立ち会いのもとで速やかに開票を行い，選挙規則に則って当選者の決定を行うものとする．
２．開票結果を総会報告書として作成し，立候補者にも通知する．Webサイト，News誌においても速やかに開示するものとする．

（選挙に対する異議申し立て）
第20条　代議員および役員選挙の結果に対する，会員からの異議申し立ては，選挙管理委員会に対して行う．
２．選挙管理委員会は異議申し立て内容を確認，調査し，申立人との間で解決を図る．申立人が納得しない場合は，当該案件を総会の報告事項に加え，総会の決議に従うものとする．

（選挙結果の承認）
第21条　選挙管理委員会は，選挙結果を総会に報告し，代議員および役員選任の承認を受けなければならない．

（代議員および役員の欠員）
第22条　何らかの理由により，代議員および役員の任期中に欠員が生じた場合でも，選挙規則第５条第９号，10号，11号に基づき補充選挙は行わないものとする．

（附　則）
　本細則は2009年６月30日から施行する

## 一般社団法人日本地質学会
## 選挙管理委員会規則

（目的・業務）
第１条　選挙管理委員会は，一般社団法人日本地質学会定款14条および第32条に定められた代議員ならびに役員を選出するため，事務手続きの一切を選挙規則および選挙細則に基づいて公明正大に執り行う．

第２条　選挙管理委員会は，代議員および役員選挙の結果をWebサイトならびにNews誌で開示するとともに，総会に報告する．

（委員会の構成）
第３条　選挙管理委員は会長，副会長，理事，監事および代議員を除く正会員のなかから理事会が選出し，会長が委嘱する５名の委員により構成される．
２．委員長ならびに委員長代理は委員の互選によって選出され，委員長は選挙管理委員会を代表する．

（委員の任期）
第４条　委員の任期は総会への報告完了の日までとし，再任はさまたげない．
２．選挙管理委員は任期中，投票を除いて，代議員および役員選挙への立候補および立候補者の推薦，選挙活動をおこなうことができない．

（選管補助要員）
第５条　選挙管理委員長は，事務局職員を選挙管理委員会の補助要員に任命し，業務の一部を委嘱することができる．委嘱期間は，９月10日～３月15日とする．
２．補助要員は委員長の指示により，選挙業務（立候補受付，立候補者確認・案内，WebサイトやNews誌への掲示作業，投票用紙・広報等の印刷，郵送，投票の受取など）に関して，選挙管理委員会をサポートし，円滑に選挙が遂行されるよう協力する．なお，選挙活動に類する行為は厳に慎むものとする．

（附　則）
　本規則は2009年６月30日から施行する．

以上

# 2012年度一般社団法人日本地質学会各賞候補者募集について

日本地質学会は毎年その事業のひとつとして，研究の援助・奨励および研究業績の表彰を行っています（定款第３条）．

具体的には，運営規則第16条および各賞選考規則（本号別途掲載）に，表彰の種別や選考の手続きを定めています．これらにしたがい，下記の賞の自薦，他薦による候補者を募集いたします．ご応募いただいた候補者を，各賞選考委員会（委員は理事会の互選と職責により選出）が選考し，理事会で候補者を決定し，総会の承認を経て表彰を行います．

日本地質学会功労賞・日本地質学会表彰以外は，会員（正会員・名誉会員）であればどなたでも推薦できます．論文賞・研究奨励賞・小藤賞の対象論文リストについては，地質学会のホームページ（http://www.geosociety.jp/）をご覧いただくか，または，学会事務局までお問い合わせください．

下記の応募要項をご参照の上，各賞選考委員会（学会事務局）あてご応募下さい．期日厳守にて，たくさんのご応募をお待ちしております．なお，ご応募いただいた場合には，必ず受け取りのお返事をお出ししますのでご確認ください．

**応募の締め切りは各賞とも，2011年12月26日（月）必着です．**
**所定の様式による，とあるものは事務局にご請求下さい．**

送付先：
郵送，e-mail送信いずれも可，なるべく電子ファイルでの提出をお願いします．
ご応募いただいた場合には，必ず受け取りのお返事をお出ししますのでご確認ください．

〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル６Ｆ　一般社団法人日本地質学会各賞選考委員会
TEL：03-5823-1150，e-mail：main@geosociety.jp

**１．日本地質学会賞**

授賞対象：地質学に関する優秀な業績をおさめた本会正会員もしくは名誉会員，またはこれらの会員を代表とするグループ．

応募方法：正会員，名誉会員，支部，および専門部会による推薦（自薦も可）．所定の様式による．

**２．日本地質学会国際賞**

授賞対象：地質学に関する画期的な貢献があり，加えて日本列島周辺域の研究や日本の地質研究者との共同研究などを通じた日本の地質学の発展に関する顕著な功績があった非会員

応募方法：正会員，名誉会員，支部，および専門部会が推薦．所定の様式による．

**３．日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞**

授賞対象：地質学に関して優れた業績を上げた，2011年９月末日で満37歳以下の会員（研究テーマによって小澤儀明賞・柵山雅則賞のいずれかを授与）

応募方法：正会員，名誉会員，および専門部会による推薦（自薦も可）．所定の様式による．

**４．日本地質学会研究奨励賞**

授賞対象：2009年10月から2011年９月までの過去２年間に「地質学雑誌」および「Island Arc」に優れた論文を発表した，2011年９月末日で満35才未満の正会員．筆頭著者であれば共著でもよい．

応募方法：推薦理由書添付（400字程度）．正会員・名誉会員および専門部会であればどなたでも推薦ができます．

**５．日本地質学会論文賞**

授賞対象：

１）2008年10月から2011年９月までの過去３年間に「地質学雑誌」に発表された優れた論文

２）2008年４号から2011年３号（９月）までの過去３年間に「Island Arc」に発表された筆頭著者が本会会員による優れた論文

応募方法：推薦理由書添付（400字程度）．正会員・名誉会員および専門部会であればどなたでも推薦ができます．

**６．日本地質学会小藤賞**

授賞対象：2010年10月から2011年５月までの間に「地質学雑誌」に発表された短報で，重要な発見または独創的な発想を含むもの．

応募方法：推薦理由書（400字程度）．正会員・名誉会員であればどなたでも推薦できます．

＊小藤賞の推薦・選考は今回をもって終了いたします．短報の廃止（2011年６月より）に伴い，短報を対象とした小藤賞も廃止になりました．ただし，2010年10月から2011年５月までは短報として掲載の論文がありますので，過渡的な措置としてこれらの論文を最後の小藤賞の対象として推薦いただくことにいたしました．

**７．日本地質学会小藤文次郎賞（新設）**

授賞対象：2009年10月から2011年９月までの間に会員が発表した重要な発見または独創的な発想を含む論文．

応募方法：推薦理由書（400字程度）．正会員・名誉会員および専門部会であればどなたでも推薦ができます．地質学雑誌・Island Arc誌以外で発表された論文はPDFによるコピーを添付して下さい．

**８．日本地質学会功労賞**

授賞対象：長年にわたり地質学の発展に貢献のあった本会会員もしくは非会員．またはこれらを代表するグループ．

応募方法：正会員・名誉会員，支部，または専門部会が推薦．所定の様式による．

**９．日本地質学会表彰**

授賞対象：地質学の教育活動，普及・出版活動，新発見および露頭保全，あるいは新しい機器やシステム等の開発等を通して地質学界に貢献のあった個人，団体および法人．＊2011年から規則が変わり，対象者は会員・非会員を問いません．

応募方法：正会員・名誉会員，支部，または専門部会が推薦．所定の様式による．

注）日本地質学会賞・研究奨励賞・小澤儀明賞・柵山雅則賞の受賞候補者は，過去においてそれぞれの賞を受けていないことが要件となります．

2011年９月15日

一般社団法人日本地質学会各賞選考委員会
委員長　榊原正幸
天野一男・安藤寿男・上砂正一・永広昌之
狩野彰宏・竹下　徹・松田博貴・村田明広・山田泰広
久田健一郎・岩森　光・小嶋　智・山路　敦
石渡　明・Wallis Simon・井龍康文・前川寛和

（関連資料）

## 一般社団法人日本地質学会各賞選考規則

（目的）
１．本規則は，一般社団法人日本地質学会（以下地質学会という）運営規則第16条３項に基づき地質学会の各賞選考に関する手続きを定める．

（選考）
２．各賞の選考は，理事会のもとにおかれる各賞選考委員会が行う．各賞選考委員会については別途定める．

（各賞の受賞対象および応募資格等）
３．日本地質学会賞の応募に関する細目は次のとおりとする．
　１）応募資格：正会員，名誉会員，ならびに前記のものを代表とするグループ．ただし，過去において本賞を受けていない者．
　２）応募方法：正会員，名誉会員，支部および専門部会による推薦，自薦も可とする．所定の様式による．
４．日本地質学会国際賞の応募に関する細目は次のとおりとする．
　１）応募資格：正会員および非会員．ただし，過去において本賞を受けていない者．
　２）応募方法：正会員，名誉会員，支部および専門部会による推薦．所定の様式による．
　３）国際賞の授与は毎年度１名以内とする．
５．日本地質学会Island　Arc賞の授賞対象は次のとおりとする．
　１）募集開始年の３年前と２年前にIsland Arc誌に発表された論文．
６．日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の応募に関する細目は次のとおりとする．
　１）応募資格：募集開始年の９月末日で満37歳以下の正会員．ただし，過去において本賞を受けていない者．
　２）応募方法：正会員，名誉会員および専門部会による推薦．自薦も可とする．所定の様式による．
　３）賞の名称は，受賞する研究のテーマによって各賞選考委員会が定める．
７．日本地質学会論文賞の受賞対象は次のとおりとする．
　１）募集開始年９月までの過去３年間に地質学雑誌に発表された論文．
　２）募集開始年９月までの過去３年間にIsland Arcに発表された，筆頭者が地質学会正会員による論文．
　３）応募方法：正会員および名誉会員，専門部会による推薦．400字程度の推薦文を添付すること．
８．日本地質学会小藤文次郎賞の受賞対象は次のとおりとする．
　１）募集開始年９月までの過去２年間に会員が発表した，重要な発見または独創的な発想を含む論文．
　２）応募方法：正会員および名誉会員，専門部会による推薦．400字程度の推薦文を添付すること．
９．日本地質学会研究奨励賞の受賞対象および資格者は次のとおりとする．
　１）募集開始年９月までの過去２年間に地質学雑誌およびIsland Arcに発表された論文の著者．ただし，過去において本賞を受けていない者．
　２）募集開始年９月末日で満35才未満の正会員．筆頭著者であれば共著でもよい．
　３）応募方法：正会員および名誉会員，専門部会による推薦．400字程度の推薦文を添付すること．
10．日本地質学会優秀ポスター賞の受賞候補者の応募および選考に関する細目は次のとおりとする．
　１）応募対象：各賞選考委員会が対象と定める講演会において発表されたポスター講演の発表者またはこれらを代表するグループ．
11．日本地質学会功労賞の受賞候補者の応募に関する細目は次のとおりとする．
　１）応募対象：地質学会正会員および非会員，またはこれらを代表するグループ
　２）応募方法：正会員，名誉会員，支部または専門部会による推薦，所定の様式による．
12．日本地質学会表彰の応募に関する細目は次のとおりとする．
　１）応募対象：会員および非会員の個人，団体または機関．
　２）応募方法：正会員，名誉会員，支部または専門部会による推薦，所定の様式による．

（応募に関する告示）
13．各賞の応募に関する告示は，応募締め切り期日の３カ月前までにNews誌，Webサイト等で行う．

（選考結果の記録と報告）
14．各賞選考委員会は，選考過程と選考結果について文書で理事会に報告する．

（規則の変更）
15．本規則の変更は理事会の議決による．

附則
本規則は，2009年９月３日から施行する．
2011年４月２日，一部改正．

## 一般社団法人日本地質学会各賞選考委員会規則

（目的）
１．一般社団法人日本地質学会（以下地質学会という）各賞選考規則第２項に基づき，本規則を定める．

（委員の構成および選出）
２．各賞選考委員会（以下選考委員会という）は，理事会が推薦する10名の委員と前・現地質学雑誌編集委員長および前・現副委員長，Island Arc前・現編集委員長で構成する．

1）理事会推薦委員の10名は，専門を考慮して理事の互選により選出し，委員長はこの委員間の互選とする．
2）理事会推薦委員の任期は2年とする．

（選考検討委員会等の設置）
3．選考委員会は，日本地質学会賞，日本地質学会国際賞，日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞ならびに日本地質学会Island Arc 賞の選考に関しては，選考委員会のもとに随時，選考検討委員会を設置して諮問することができる．
4．日本地質学会賞，日本地質学会国際賞ならびに日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞の選考を行う選考検討委員会は，前・現地質学会長，過去３年間の日本地質学会賞受賞者，前・現地質学雑誌編集委員長，前・現Island Arc編集委員長および執行理事会が推薦する若干名の委員など10名程度で構成し，委員長は委員間の互選とする．
5．日本地質学会Island Arc賞の選考検討委員会は，現Island Arc編集委員長とEditorial Advisory Boardのメンバー若干名によって構成し，委員長は委員間の互選とする．
6．選考委員会は，優秀ポスター賞の選考に関して，随時，優秀ポスター賞選考委員を任命し，その意見を選考の参考にすることができる．

（利益相反）
7．選考委員会委員ならびに選考検討委員会委員が受賞候補対象者となった場合，または委員と候補者の関係が深い（親族，共同研究者，研究指導者など）と判断される場合は，地質学会利益相反防止規則に基づいて，該当する賞の選考には一切関与しないこととする．これによって減数した委員の補充は行わない．

附則
(1) 本規則の変更は理事会の議決による．
(2) 本規則は，2009年９月３日から施行する．
(3) 2011年５月21日，一部改正．

---


筑波大学
University of Tsukuba

## 社会人のための博士後期課程「早期修了プログラム」
### ― 最短1年で課程博士を取得 ―

本プログラムでは、一定の研究業績や能力をもつ社会人のために、最短１年間で博士後期課程を修了して、課程博士が取得できる教育体制を整えています。昨年度は筑波大学全体で16名のプログラム履修生が1年間の在学で課程博士の学位を授与され修了しました。この度、平成24年4月の筑波大学の入学に向けた説明会を下記の通り開催いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

◆ 説明会 ◆
筑波キャンパス（春日地区）　平成23年11月４日（金）18：30 ～ 20：00
東京キャンパス（大塚地区）　平成23年10月29日（土）13：30 ～ 15：00

◆ 早期修了プログラムの詳細 ◆　http://www.souki.tsukuba.ac.jp/ : jimu@souki.tsukuba.ac.jp

◆ 実施研究科の問い合わせ先 ◆
・ビジネス科学等支援室教務係　：03-3942-6918
・数理物質科学等支援室大学院教務担当：kyoumu-pas@un.tsukuba.ac.jp
・システム情報工学等支援室大学院教務：sysinfo.kyomu@sie.tsukuba.ac.jp
・生命環境科学等支援室大学院教務　：seimeiin@un.tsukuba.ac.jp

## ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します.

### 東海地震防災セミナー2011のお知らせ[第28回]

下記のとおり本年も開催いたします。関心をお持ちの方々のご参加を期待します。

日時：平成23年11月10日（木）13:30－16:00
会場：静岡商工会議所静岡事務所5階ホール
（JR静岡駅北口西側）
テーマ：東日本大震災に学ぶ
座長：静岡大学理学部地球科学科　静岡大学防災総合センター　教授　里村 幹夫

1．最近の研究から明らかになった東海・東南海・南海地震の連動発生の可能性とその影響
東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター　東京大学地震研究所自然災害系研究部門　教授　古村　孝志

2．減災社会を築く
静岡県危機管理部　危機報道官
岩田 孝仁

主　催：東海地震防災研究会
連絡先：〒422-8035静岡市駿河区宮竹 1 - 9 -24
土研究事務所
Tel.：054-238-3240
Fax：054-238-3241
（土　隆一）

### 原子力総合シンポジウム2011（共同主催日本地質学会）

主調テーマ「原子力安全の再構築―東日本大震災を踏まえて―」
2011年10月19日（水）
会場：日本学術会議講堂
（東京都港区六本木 7 -22-34）
参加費無料：ただし講演資料集代1,000円（予価）

**＜開催趣旨＞**

中長期的視点から福島第一原子力発電所事故の状況，今後の地域復興にかかわる進め方の提示，原子力安全にかかわる再構築等について，日本学術会議と関連学協会が協力し，各界の識者を交えて総合的に議論する。

**＜プログラム（予定）＞**

○午前の部
司会：（東京工業大学）二ノ方　壽
開会の辞（10:00-10:05）（東洋大学）矢川元基
挨拶（10:05-10:25）　（日本学術会議）会長
(1) 原子力災害にかかわる提言（10:25-10:50）
（筑波大学名誉教授）成合英樹
(2) 原子力事故評価と今後の対応
（10:50-11:15）　（東京大学）澤田　隆
(3) 地震と津波評価（11:15-11:40）
（京都大学名誉教授）入倉孝次郎
―昼　休（11:40-13:00）―
○午後の部
司会：（筑波大学名誉教授）成合英樹
(4) 航空事故事例から原子力発電所の安全を考える（13:00-13:30）（立正大学）垣本由紀子
(5) 放射線の分布と影響（13:30-14:00）
（日本原子力研究開発機構）柴田徳思
(6) 放射線・放射能と除去回復（14:00-14:30）
（東京大学）田中　知
―休　憩（14:30-14:45）―
(7) 原子力安全の再構築（パネルディスカッション）（14:45-16:55）
司会：（東洋大学）矢川元基
パネリスト：（横浜国立大学）白鳥正樹，（京都大学名誉教授）木下冨雄，（東京女子大学名誉教授）広瀬忠弘，（宇都宮大学）松岡猛，（科学技術振興機構）井上孝太郎

閉会挨拶（16:55-17:00）
（日本原子力学会）田中　知
（敬称略）

### ZMPC2012（International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2012）

2012年 7 月28日（土）～ 8 月 1 日（水）
主催：ゼオライト学会
協賛：化学工学会，触媒学会，石油学会，日本イオン交換学会，日本エネルギー学会，日本化学会，日本セラミック協会，日本地質学会，日本鉱物学会，日本分析化学会，日本結晶学会，資源地質学会，日本粘土学会，有機合成協会ほか（予定も含む）
会場：アステールプラザ（広島市中区加古町4-17）
趣旨：ゼオライトおよび類縁化合物，メソポーラスシリカ，有機無機ハイブリッド結晶，ナノポーラスカーボンなどの材料に関する国際会議
内容：

**(1) Plenary Lecture　6件**

Avelino Corma（Universidad Politécnica de Valencia, Spain），Jiří Čejka（J. Heyrovsky Institute of Physical Chemistry, Czech Republic），Kazuyuki Kuroda（Waseda University, Japan），Ryong Ryoo（Korea Advanced Institute of Science and Technology, South Korea），Takashi Tatsumi（Tokyo Institute of Technology, Japan），Valentin Valtchev（ENSICAEN, Universite de Caen, CNRS, France）

**(2) Keynote Lecture　18件**

Hyoung Jin Choi（Inha University, South Korea），Plinio Innocenzi（Universit di Sassari, Italy），Freek Kapteijn（Delft University of Technology, Netherlands），Stefan Kaskel（Dresden University of Technology, Germany），An-Hui Lu（Dalian University of Technology, China），Masahiko Matsukata（Waseda University, Japan），Russell E. Morris（The University of St Andrews, UK），Alexander Neimark（Rutgers University, USA），Tatsuya Okubo（The University of Tokyo, Japan），Carlo Perego（Istituto Eni Donegani, Eni SpA, Italy），Wieslaw J. Roth（J. Heyrovsky Institute of Physical Chemistry, Czech Republic），George Shimizu（University of Calgary, Canada），Ben Slater（University College London, UK），Takahiko Takewaki（Mitsubishi Chemical Co., Japan），Hideaki Tsuneki（Nippon Shokubai Co., Ltd., Japan），Jeroen A. van Bokhoven（ETH Zurich, Switzerland），Peng Wu（East China Normal University, China），Yushan Yan（University of Delaware, USA）

**(3) 一般講演（口頭, ポスター）**

講演申込方法・参加費等
http：//www.zmpc.org/
**講演申込締切　2011年12月15日（木）**
問合先：犬丸　啓（広島大，FAX：082-424-5494，E-mail：secretary@zmpc.org）

## 公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します.

応募

### 高知大学教育研究部自然科学系理学部門教員公募（助教）

1．公募人員：助教 1 名（ 5 年の任期付き，再任可）
2．所属：高知大学教育研究部自然科学系理学部門
3．専門分野：地質学または地形学を基礎とする災害科学分野（高知県や四国地方に特有の地震，地すべり，豪雨等を理学的権利から教育研究できる方が望ましい.）
4．担当授業：［学部］理学部災害科学コースの野外調査法，自然災害調査実習，基礎地学実験，ケーススタディなどの専門科目，卒業研究指導および関連する全学共通教育科目［大学院］総合人間自然科学研究科理学専攻災害科学分野の専門分野に関連する科目，修士論文作成指導
5．応募資格：博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む）を有

するか，取得見込みの方．
6．応募締切：**平成23年10月21日（金）17時必着**
7．採用時期：平成24年４月１日（予定）
8．選考方法：一次選考～書類選考，二次選考～模擬授業（セミナー）と面接（諸経費は自己負担です．）
9．提出書類：
(1) 履歴書（別紙様式１，高知大学のホームページから取得できます．）(2) 研究業績目録(研究論文[レフェリー付き・無しに分類]，著書，総説，特許，学会発表，受賞等をＡ４版（様式任意）で作成のこと．また，掲載予定である論文については掲載受理証明のコピーを添えること．）(3) 研究業績別刷各２部（研究論文・著書・総説についてはすべて提出のこと，コピー可）(4) これまでの研究の概要と将来の研究に関する計画（Ａ４版，2,000字程度，様式任意）(5) 教育業績一覧（大学等における講義等の担当履歴，学生の研究指導履歴，社会における教育普及活動等，Ａ４版，様式任意）(6) 着任後の教育に対する抱負（Ａ４版，1,200字程度，様式任意）(7) 科学研究費補助金等の外部資金獲得状況 (8) 応募者について問い合わせることのできる方２名の氏名，現在の所属と役職及び連絡先（そのうち１名の方からの推薦書が二次選考時に必要となります．）
※上記提出いただいた書類は原則として返却いたしませんので，ご留意願います．
10．応募書類の送付先：
〒780-8520　高知市曙町2-5-1
高知大学教育研究部自然科学系理学部門
選考委員会委員長　田部井　隆雄　宛
なお，封筒には「教員応募書類在中」と朱書し，必ず簡易書留で郵送のこと．
11．問い合わせ先　同上
Tel，Fax：088-844-8288
E-mail：tabei@kochi-u.ac.jp
高知大学理学部ホームページ
http://science.cc.kochi-u.ac.jp/index.html

## 北海道大学大学院自然史科学部門 地球惑星システム科学分野 教員公募

1．職種・人員・専攻分野
自然史科学部門 地球惑星システム科学分野　教授１名
専攻分野：地球史・生命史

2．応募資格：博士号を取得していること．当該分野で国際的に優れた研究業績を有し，高い見識と指導力をもって研究グループをまとめ，独創的な研究を強力に推し進めていただける方．全学教育（初年次教育）および地球惑星システム科学関連の学部・大学院授業を担当していただける方．

3．着任予定時期：2012年４月１日以降のできるだけ早い時期

4．応募書類
イ）履歴書（内外の学会活動，受賞歴，参加しているプロジェクト研究歴，各種研究費受領歴なども記載すること）
ロ）これまでの研究経過（2,000字程度）
ハ）研究業績目録（和文のものは和文で表記すること）
Ａ．査読のある原著論文
Ｂ．査読のない論文，総説など
Ｃ．著書
Ｄ．解説，報告などその他の出版物で特に参考になるもの
ニ）主な原著論文の別刷10篇以内（複写可）
ホ）今後の教育・研究の計画・抱負（2,000字程度）
へ）応募者について照会が可能な方２名の氏名と連絡先（電話番号，電子メールアドレス）

5．応募締め切り：**2011年10月28日（金）必着**
封筒の表に「教員公募関係」と朱書し，簡易書留または宅配便にて送付すること．
教員公募関係書類は個人情報保護法に基づいて厳正に管理し，審査終了後には適切に処分します．

6．備考　選考の過程で面接等を行うことがあります．
※面接に係る旅費・滞在費は応募者負担となりますのでご了承ください．
北海道大学では男女共同参画基本法が制定されて以来，男女共同参画社会の実現を目指して，様々な取り組みを行っています．教員の公募に関しても，その精神に則り教員の選考を行います．詳しくは以下をご覧下さい．
(http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/soumubu/jinjika/kyoudosankaku/)

7．書類の送付先及び問い合わせ先：
〒060-0810　札幌市北区北10条西８丁目
北海道大学 大学院理学研究院 自然史科学部門 地球惑星システム科学分野
永井　隆哉
電話：011-706-2732（dial in）
FAX：011-706-4650
電子メール：nagai@mail.sci.hokudai.ac.jp

## 千葉大学大学院理学研究科・地球生命圏科学専攻地球科学コース　教員公募

1．職名・人数：准教授または助教・１名
2．公募分野：地球表層科学教育研究分野
野外での調査・観測・実験に基づいて，学際的で新しい視点から地表でおこる過去から現在までの物質移動，物質循環，環境変動などに関する研究を行っている方．また，地球科学コースの教員と連携して教育研究を行える方．
3．担当授業科目：普遍（教養）教育の授業科目と野外・室内実験，学部の授業科目と野外・室内実験，地球科学演習，卒業研究指導，および大学院博士前期課程ならびに博士後期課程の授業科目と研究指導．
4．応募資格：博士の学位を持つ方．または，着任時までに博士の学位を取得見込みの方．
5．着任時期：2012年４月１日（予定）
6．応募書類：
a. 履歴書
b. 業績リスト（査読論文とそれ以外を区分）
c. 主要論文５編の別刷あるいはコピー
d. 推薦状または所見を伺える方数名の氏名，連絡先等
e. これまでの教育・研究実績と千葉大学赴任後の教育・研究計画・抱負等（Ａ４用紙２～３枚程度）
7．応募の締切：**2011年10月31日（月曜日）必着**
8．応募書類の送付先
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
千葉大学大学院理学研究科地球生命圏科学専攻　地球科学コース
応募書類は必ず書留郵便で，封筒には「公募書類」と朱書してください．
**問い合わせ先**
2011年度コース長　小竹信宏
E-mail：nkotake@earth.s.chiba-u.ac.jp
電話：043-290-2831
9．個人情報について：教員公募に関連して提供された個人情報は，選考の目的に限って利用し，選考終了後返却致します．
10．その他：選考過程で，応募者にセミナーをしていただきます．
11．地球科学コース教員構成（2011年10月１日時点の予定，アイウエオ順）
（地球科学コースのホームページURL
http://www-es.s.chiba-u.ac.jp/）
◆地球内部科学教育研究領域
教　授：井上厚行，金川久一，佐藤利典，服部克巳，廣井美邦
准教授：津久井雅志，中西正男
助　教：高橋奈津子，津村紀子，古川　登
◆地球表層科学教育研究領域（本公募分野）
教　授：伊藤　慎，小竹信宏，宮内崇裕
准教授：金田平太郎，亀尾浩司，竹内　望，松本みどり，吉田修二
◆環境リモートセンシング教育研究領域*
教　授：近藤昭彦，高村民雄，建石隆太郎，西尾文彦
准教授：樋口篤志
助　教：本郷千春
*環境リモートセンシング研究センター専任教員で構成

## 岡山大学大学院
## 自然科学研究科教員の公募

1．職名・人員：教授・1名
2．採用分野：地球システム科学
3．着任時期：平成24年4月1日，またはこれ以降のできるだけ早い時期
4．所属：岡山大学大学院自然科学研究科先端基礎科学専攻地球システム科学講座（岡山大学理学部地球科学科兼担）
5．応募資格：
(1) 博士の学位を有すること (2) 地球システム科学的視点から地質学・岩石学・鉱物学に関する教育研究を熱意を持って推進できる方
6．担当予定授業科目：
(1) 教養教育科目：地学及びその他の関連科目
(2) 学部及び大学院自然科学研究科（博士前期課程，博士後期課程）：専門分野に関連する専門科目
7．提出書類：
(1) 履歴書（様式1）(2) 学会及び社会における活動（様式2）(3) 教育に関する経歴書（様式3）(4) 研究業績概要書（様式4）(5) 研究業績目録（様式5）(6) 主要研究業績5編の別刷（最近5年間の業績を主体に代表的なもの；コピー可）(7) 採用された場合の研究と教育に対する抱負（2,000字程度．様式自由）(8) 外部資金の獲得状況 (9) 応募者について意見を伺える方2名の氏名，所属，連絡先
　応募書類の（1）～（5）の様式は以下のページにあります．
http://www.gnst.okayama-u.ac.jp/other/koubo_index.html
　なお，応募いただいた書類は返却しません。
8．公募締切：**平成23年10月31日（月）必着**
9．書類送付先：〒700-8530　岡山市北区津島中三丁目1－1
岡山大学理学部地球科学科　塚本修宛
（封書に「応募書類在中」と朱書のうえ，書留で送付のこと）
10．照会先：岡山大学理学部地球科学科　塚本修
（電話：(086) 251-7893，E-mail：desc-apply@earth.desc.okayama-u.ac.jp）
11．公募締切後の選考段階で，面接を行うことがあります．ただし，旅費は支給できません．地球科学科の教員構成等については，HP（下記）をご覧下さい．
　http://earth.desc.okayama-u.ac.jp/
○岡山大学では男女共同参画を推進し，女性教員をサポートしています．
　女性の積極的な応募を歓迎します．

## 山口大学大学院理工学研究科
## 地球科学分野教員公募

1．公募人員：教授または准教授1名
（ポストに関しては，教育・研究業績に応じて審査・決定します）
2．所属：大学院理工学研究科地球科学分野（理学部地球圏システム科学科）
　山口県山口市吉田1677-1
3．専門分野：地球科学，とくに地史学（層序学・地球環境科学）分野
4．担当科目：共通教育科目，学部及び大学院専門科目
5．応募資格
(1) 博士の学位を有する方
(2) 地史学分野の講義・実験・実習等を担当でき，フィールド教育（野外実習や野外巡検等）に熱意をもって取り組める方
(3) 当学科ではJABEE（日本技術者教育認定機構）認定プログラムに基づき教育を実施しております．当該学科の現スタッフと協調して，このプログラムに沿って高度技術者となりうる人材の養成に積極的に取り組める方
6．待遇：給与等雇用条件は，本学の規程による
7．着任時期：平成24年4月1日
8．応募締切：**平成23年10月14日（金）（必着）**
9．提出書類（1）履歴書（写真を貼付し，学位，連絡先（住所，電話番号，可能ならば電子メールアドレス，Webサイト）を明記すること）(2) 研究業績リスト（研究論文，著書等に分けて，査読の有無や印刷中，投稿中のものはその旨を明記すること）(3) 業績リストに記した主要研究論文の別刷又はコピー（5編以内）(4) これまでの研究経過と将来の研究計画（A4判で2枚以内）(5) 着任後の教育に対する抱負（A4判で1枚）(6) 競争的外部資金の獲得状況 (7) 応募者について照会可能な2名の方の氏名と連絡先（所属・職名・勤務先住所・電話／Fax番号・電子メールアドレスなど）
※書類選考後，面接を行います．面接に伴う費用等は自己負担となります．
10．送付先
〒753-8512　山口県山口市吉田1677-1
山口大学大学院理工学研究科自然科学基盤系学域地球科学分野　分野長　永尾隆志
※封筒に「地球科学分野教員応募書類在中」と朱書のうえ，「簡易書留」で郵送して下さい．
　応募書類は返却しません．なお，応募書類に含まれる個人情報は本選考以外の目的には使用しません．
問合せ先：
　宮田雄一郎　TEL 083-933-5747
　E-mail： miyata@sci.yamaguchi-u.ac.jp
11．その他当分野のスタッフ及び研究内容につきましては，当分野のホームページをご覧下さい．（http：//www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/geo/index.html）

## 各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は，執行理事会までお申し込み下さい．

## 平成24年度
## 笹川科学研究助成の募集

≪募集期間≫
**平成23年10月1日～平成23年10月14日**
≪募集概要≫
○学術研究部門
1．助成対象となる研究
　［一般科学研究］人文・社会科学，自然科学（医学を除く）に関する研究
　［海洋・船舶科学研究］「海洋学および海洋関連科学」ならびに「船舶および船舶関連科学」に関する研究
2．募集対象者
　［一般科学研究］大学院生あるいは所属機関等で研究活動に従事する（非常勤）35歳以下の者
　［海洋・船舶科学研究］大学院生あるいは所属機関等で研究活動に従事する（常勤・非常勤は問わず）35歳以下の者
○実践研究部門
1．助成対象となる研究
　教育・学習・自立支援等を行う様々な組織・団体（NPOを含む）に所属する者またはグループが，その実践の場で抱える諸問題の解決のために行う研究
2．募集対象者
　専門的立場にある者，あるいは問題解決に取り組んでいる当事者など．

≪お問い合わせ先≫
財団法人日本科学協会　笹川科学研究助成係
〒107-0052　東京都港区赤坂1-2-2
日本財団ビル5F
TEL：03-6229-5365　FAX：03-6229-5369
E-mail：ssrg-jss@silver.ocn.ne.jp
URL：http://www.jss.or.jp

◆詳細　http://www.jss.or.jp/sasagawa/index.html

## 山田科学振興財団
## 2012年度研究援助候補推薦

援助趣旨
1．本財団は，自然科学の基礎的研究に対して，研究費の援助をいたします．実用指向研究は援助の対象としません．
推薦に際しては，次記を考量して下さい．
1）萌芽的・独創的研究

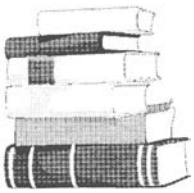
2）新規研究グループで実施される研究
3）学際性，国際性の観点からみて優れた研究
4）国際協力研究
2．援助額は1件当たり100－500万円，総額3,000万円，援助総件数は15件
3．援助金を給与に充てることはできませんが，特に財団が指定した場合を除き，給与以外の使途は自由です．
4．援助金の使用期間は，贈呈した年度及びその次の年度の約2年間とします．

推薦方法　**学会推薦**

被推薦者　1）当該研究を独立して実施し得る者でなければならない．すなわち，当該研究者は代表研究者であることを必要とし，単に研究グループの研究費集めの一端を担う者であってはならない．2）身分，経歴，年齢等は問わない．但し，日本の研究機関に所属する研究者であること．

推薦期限　**2012年3月末（学会締切3月末）**

詳しくは，http://www.yamadazaidan.jp/enjyo2.html



## 紹　介

### 賢治と鉱物
### ―文系のための鉱物学入門―

**加藤碩一・青木正博著**

2011年7月20日刊行，272ページ．3,200円＋税，工作舎，ISBN978-4-87502-438-5

日本人なら誰でも宮沢賢治の作品を一つは読んだことがあるだろう．教科書にもしばしば登場するから童話作家と思っている人が多い．もう少し知っている人なら，作家，詩人，宗教家，農民の地学者などなど…，という．賢治像は人さまざまである．いずれも確かに一側面は表しているが，賢治はそれらすべてを包含したもっとスケールの大きい人間なのだろう．通底しているのは，「石っこ賢さん」と呼ばれた少年期から盛岡高等農林時代までに身につけた地質学鉱物学である．

本書は賢治作品に登場する鉱物を色別に解説している．正方晶系云々といった学問的な分類ではなく，色別に並べた点がユニークである．これは「文系のため」におもねったというより，本質的で正鵠を得たやり方だと思う．日本列島は四季が明瞭で，亜熱帯から亜寒帯まで植物も多種多様，自然が豊かである．したがって，日本語の色の名前（和色）は他言語に比し著しく豊富だという．しかし，賢治の感性ではそれをもってしても十分に表現できなかったのであろう，「天河石，心象のそら」とか「天青石まぎらふ水」といった具合に，鉱物名を多用している．同じ青でも微妙な違いを鉱物で表現しているのである．朝焼けと夕焼けの空も黄水晶と琥珀で使い分けるなどこだわりがある．それ故，賢治作品を真に理解するためには鉱物の色を知ることは不可欠なのである．なお，鉱物名も和名・英語名・ドイツ語名と使い分け，リズム効果も狙っているという．

本書は各節とも2つの部分から構成されている．まず，賢治作品の抜粋とそこに登場する当時の鉱物名の考証が行われている．現在では死語になっているのも多いからである．それにまつわる話や語源などにも触れてあり，読み物としても面白い．後半は鉱物のすばらしいカラー写真と解説からなる．理学部地学科の学生が必ず教わる結晶系など鉱物学的性質は一覧表にさらりとまとめられて詳細が省かれているのが，「文系のための鉱物学入門」と副題を付けた所以であろう．代わりに鉱物の成因や産状が平易に解説されている．

前者は，先年『宮沢賢治の地的世界』を上梓し，宮沢賢治賞奨励賞を受賞した博覧強記の加藤碩一氏（産総研フェロー：構造地質学）が担当し，後者は写真にかけてはプロ級として有名な青木正博氏（地質標本館名誉館長：鉱物学）が分担している．青木氏の写真は産総研のカレンダーに採用されたこともある．まさにベストメンバーによるコラボで完成したのが本書である．

章別構成は次の通り．

はじめに
年譜
第1章　青い鉱物
第2章　緑の鉱物
第3章　黄色い鉱物
第4章　赤い鉱物
第5章　白い鉱物
第6章　黒い鉱物
付録―用語解説
作品索引／事項索引
あとがき

鉱物学は難解な専門用語が多く，それだけで敬遠されがちである．易しい用語解説が付いているのはうれしい．本文の理解に大いに役立つ．

あえて欲を言えば，賢治が実際に見た岩手大学所蔵のクランツ標本や国立科学博物館に保存されている当時の古い標本を採用して欲しかった．鉱物の色は千差万別だからである．保存状態が悪かったためだろうが，クリーニングなどの手はあったのではないだろうか．なお，副題は不要であろう．「鉱物学入門」などというとお勉強させられるイメージが付きまとう．それよりも，きれいな写真集を眺めて，賢治の世界に思いをはせる，あるいはしばし賢治の世界に遊ぶ，でよいのではなかろうか．本書はその目的に十分応えている．賢治の心象世界を真に知りたい賢治ファンにとっては座右に置くべき必読書である．教科書の童話しか知らない地質鉱物関係者にとっては，賢治への入門書となろう．

（**岩松　暉**）

＜追記＞岩手大学所蔵標本は，出版企画時には撮影不許可だった由．

Islands Arcは，年４回発行されます．最新号のVol. 20 Issue 3が2011年９月に発行されました．日本語要旨をニュース誌と学会ホームページ（http://www.geosociety.jp）にも掲載しています．全文はオンライン（http://www. blackwell-synergy.com）で無料閲覧できますので，是非ご覧下さい．

（Island Arc編集委員会）

## Vol. 20 Issue 3（September）

### ［Pictorial Articles］

**1. Basal slip plane of the Kurotaki unconformity in the Boranohana area along the Pacific coast of the Boso peninsula, Central Japan**

*Makoto Otsubo, Naofumi Yamaguchi, Shin'ichi Nomura, Nozomi Kimura and Hajime Naruse*

**千葉県勝浦海岸ぼらの鼻で認めれた黒滝不整合の剪断面**

大坪　誠，山口直文，野村真一，木村希生，成瀬　元

### ［Review Articles］

**2. Timing of collision of the Kohistan-Ladakh Arc with India and Asia: Debate**

*Hafiz Ur Rehman, Tetsuzo Seno, Hiroshi Yamamoto and Tahseenullah Khan*

**コヒスタン－ラダック弧のインドおよびアジアとの衝突時期についての論争**

Hafiz Ur Rehman，瀬野徹三，山本啓司，Tahseenullah Khan

コヒスタン－ラダック弧は，島弧地殻断面の露出域として知られている．この島弧の形成，アジア－インド両大陸との衝突の時期，衝突時の位置に関して盛んに議論がなされてきた．概ね受け入れられている説は，102～75 Maに赤道付近もしくは北半球低緯度地域で島弧がアジアと衝突し，55～50 Maにインドが衝突したとするものである．近年，島弧とインドの衝突が61 Ma以前で，島弧を含むインドとアジアの衝突を50 Ma頃とする説が提唱されている．後者の衝突順による最も詳細なモデルでは，コヒスタン－ラダック弧は赤道付近でインドと衝突・合体し，北緯30° 以北でアジアに衝突したとされる．この場合，インドプレートの北進速度が60 Ma頃以降は異常に大きい値（30± 5 cm/yr）であったことになる．本論では，種々の既存データ，特にオフィオライト，青色片岩，52 Ma以前の海成層の分布に着目して検討し，島弧とアジアの衝突が先で，島弧を含むアジアとインドの衝突が後とするのが妥当と結論する．

Key Words : Asian Plate, Indian Plate, Kohistan-Ladakh Arc, Northern Suture, Southern Suture, timing of collision.

### ［Research Articles］

**3. Petrogenetic modeling of rock variety in the Khalkhab-Neshveh pluton, NW of Saveh, Iran**

*Mehdi Rezaei-Kahkhaei, Dariush Esmaeily and Fernando Corfu*

**イラン，サヴェー北西部のKhalkhab-Neshweh深成岩体を構成する岩石類の成因モデル**

Khalkhab-Neshveh深成岩類は，Urumieh-Dokhtar Magmatic Arcの一部をなし，一帯を覆う後期漸新世から前期中新世の玄武岩類や安山岩類を貫いている．石英モンゾ斑糲岩，石英モンゾ閃緑岩，花崗閃緑岩，花崗岩の組成をもち，medium-Kからhigh-K，メタアルミナス，Iタイプの特徴をもつ深成岩である．単斜輝石，斜長石，角閃石，燐灰石，チタナイトの晶出に強く支配された弱い分別トレンドを示し，$K_2O$を除く主要な元素は，$SiO_2$に対して負の相関を示し，$Al_2O_3$，$Na_2O$，Sr，Eu，Yは曲線的なトレンドをもつ．玄武岩質マグマとデイサイト質マグマの混合，重力分別晶出作用，*in situ* 結晶作用を含むマグマの分化作用の３つのプロセスのうち，*in situ* 結晶作用が，Khalkhab-Neshvehマグマの発達に寄与した可能性が最も高い．この結論は，すべての岩石種が同じレベルに産すること，花崗岩質岩中に塩基性の捕獲岩を欠くこと，$Na_2O$，Sr，Euの曲線的な分化トレンド，モンゾ閃緑岩と花崗岩それぞれの$^{87}Sr/^{86}Sr$比が一定であること（前者は0.70475，後者は0.70471）からも支持される．*In situ*結晶作用は，1050℃以上の温度条件下において貫入岩体の周辺部で発生した斜長石と単斜輝石斑晶の沈積と石英モンゾ斑糲岩と石英モンゾ閃緑岩におけるこれら斑晶の濃集，および約880℃におけるホルンブレンド，斜長石，そして後期の黒雲母の絞り出し作用と分化作用を経て生じた．

Key Words : *in situ* crystallization, Iran, magma mixing, petrogenetic modeling, Urumieh-Dokhtar Magmatic Arc.

**4. Calcareous nannofossil biostratigraphic study of forearc basin sediments: Lower to Upper Cretaceous Budden Canyon Formation (Great Valley Group), northern California, USA**

*Allan Gil S. Fernando, Hiroshi Nishi, Kazushige Tanabe, Kazuyoshi Moriya, Yasuhiro Iba, Kazuto Kodama, Michael A. Murphy and Hisatake Okada*

**米国北カリフォルニアに分布する前弧海盆堆積物，下部～上部白亜系ブッデン・キャニオン層（グレート・バーレイ層群）のナノ化石層序の研究**

Allan Gil S. Fernando, 西　弘嗣，棚部一成，守屋和佳，伊庭靖弘，小玉一人，Michael A. Murphy，岡田尚武

北カリフォルニアに分布するブッデン・キャニオン（Budden Canyon）層のノースフォーク・コットンウッド・クリーク（North Fork Cottonwood Creek）・セクションにおいて，BC/UC化石帯を用いてナノ化石層序を設定した．この化石層序と古地磁気層序を統合すると，本層はオーテビリアンからチューロニアン中期の地質時代を示し，各ステージ境界も本層の中に設定することができた．これらの結果から，ヒューリング砂岩部層（Huling Sandstone Member）の基底とチカバリ部層（Chickabally Member）の上部に，不整合の存在が推定される．ナノ化石群集は，バレミアンとアプチアン初期までは冷水塊の影響下にあるが，アルビアンからチューロニアンでは暖流化の群集へと変化することから，中期白亜紀の温暖化の影響を受けていることがわかる．従来の研究では，海洋無酸素事変の存在はブッデン・キャニオン層から報告されていなかったが，有機物量の変化からOAE２の存在が示唆される．

Key Words : biostratigraphy, Budden Canyon Formation (BCF),

calcareous nannofossils, California, Cretaceous, Great Valley Group (GVG), oceanic anoxic event 2 (OAE2).

**5. Thermal histories of Cretaceous basins in Korea: Implications for response of the East Asian continental margin to subduction of the Paleo-Pacific Plate**

*Taejin Choi and Yong Il Lee*

**朝鮮半島の白亜系堆積盆の熱史：古太平洋（イザナギ）プレートの沈み込みに対する東アジア大陸縁辺部の応答に関する考察**

古太平洋（イザナギ）プレートの沈み込みに対する東アジア大陸縁辺部の応答を理解するために朝鮮半島の白亜系堆積盆の熱史を検討した．イザナギプレートは東アジア大陸に対し，白亜紀前期には斜め方向に，白亜紀後期には直交方向に沈み込んでいた．Pull-apart basinである鎭安堆積盆（Jinan Basin）におけるイライト結晶度とアパタイトのフィッショントラック年代検討結果は，同堆積盆の堆積物の埋没温度が287°Cに達したことを示す．その後，同堆積盆では95～80 Maおよび約30 Ma以降という2回の冷却期があった．同様の冷却パターンは，韓国における白亜紀最大の堆積盆である慶尙堆積盆（Gyeongsang Basin）でも認められる．鎭安堆積盆ならびに 慶尙堆積盆は，95～80 Maに主に上昇により冷却したが，イザナギプレートの沈み込み方向の変化によるtranspressional force（斜め圧縮力）のため，鎭安堆積盆の方が 慶尙堆積盆よりもやや早く上昇した．朝鮮半島の白亜系堆積盆，中国東北部の花崗岩類，西南日本の付加コンプレックスの熱史の比較検討より，朝鮮半島を含む東アジア大陸縁辺部で95～80 Maに生じた上部白亜系の地域的な上昇は，当時，北東方向に移動しつつあったIzanagi-Pacific ridgeの沈み込みによって促進され，約80 Maには上昇が終了した．

Key Words : active continental margin, Cretaceous, fission-track dating, Korean peninsula.

**6. Alkaline lamprophyric province of Central Iran**

*Fereshteh Bayat and Ghodrat Torabi*

**中央イランのアルカリ・ランプロファイア分布域**

中部－東部イランマイクロコンティネントの西部には，古生代のランプロファイア類が良く露出している．ここではランプロファイア類は，火山や岩脈，岩頸（plug）をなして産する．構成鉱物は，角閃石，単斜輝石，斜長石，カリ長石，かんらん石，クロムスピネル，チタナイト，黒雲母，イルメナイトである．噴出岩の産状をもつランプロファイアは，主に斑状組織，トラキティック組織，マイクロリシック組織，バリオリティック組織をもち，岩脈や岩頸では間粒状組織が一般的である．これらのランプロファイアには，広域的に変成作用を受けているところがある．岩石学的・地球化学的な性質から，これらがアルカリ・ランプロファイアとカンプトナイトに分類されることがわかる．アルカリ（$Na_2O+K_2O$）やLIL元素，軽希土類元素に富み，微量元素濃度は，プレート内玄武岩に類似する．本研究により，ランプロファイア類は，交代作用によって生じた角閃石を含むスピネルレルゾライトの様々な程度の部分溶融に由来することが示唆される．古生代前期から後期にかけての古テチス海洋地殻の沈み込みがマントル内に流体を富ませた結果，ランプロファイアの火成作用が大小の断層に沿って生じたと考えられる．この中部イランにおける広範囲な地域の限定的かつ典型的なランプロファイアの火成作用は，古生代が長く続いたにも関わらず，中部イランの火成作用でみる限り，比較的静かな時代であったといえる．

Key Words : Alkaline lamprophyre, Central Iran, metasomatized mantle, Paleo-Tethys, Paleozoic.

**7. Phengite geochronology of crystalline schists in the Sakuma-Tenryu district, central Japan**

*Nguyen Dieu Nuong, N. G. O. Xuan Thanh, Chitaro Gouzu and Tetsumaru Itaya*

**中部日本佐久間―天竜地域における結晶片岩のフェンジャイトK-Ar年代学**

Nguyen Dieu Nuong, N. G. O. Xuan Thanh，郷津知太郎・板谷徹丸

佐久間天竜地域には主に泥質片岩と塩基性片岩を産する．その変成帯は白倉ユニットと瀬尻ユニットに分帯される．両ユニットから泥質片岩を採集し，そのフェンジャイトのK-Ar年代測定と炭質物のXRD分析を実施した．年代と炭質物の結晶面間隔$d_{002}$の関係を調べた結果，変成温度の上昇とともに前者では年代が古く（66-73 Ma）なり四国中央部三波川高圧変成帯と同じ傾向であった．後者では若く（57-48 Ma）なり関東山地の四万十高圧変成帯と同じ傾向であった．この対照的な年代と変成温度の関係は変成帯の上昇過程におけるテクトニクスの違いに因る．つまり，前者ではピーク変成作用とその後の上昇冷却過程におけるフェンジャイトK-Ar系の閉鎖が3100万年以上かかり，後者では1300年以下であったことに因る．沈み込むプレート境界の性質の違いが変成帯の上昇過程の違いをもたらしたと解釈する．

Key Words : age-temperature-structure relation, $d_{002}$ of carbonaceous material, exhumation processes, K-Ar phengite ages, Sanbagawa schists, Shimanto schists.

**8. Submerged reefal deposits near a present-day northern limit of coral reef formation in the northern Ryukyu Island Arc, northwestern Pacific Ocean**

*Hiroki Matsuda, Kohsaku Arai, Hideaki Machiyama, Yasufumi Iryu and Yoshihiro Tsuji*

**北西太平洋琉球列島北部，現世サンゴ礁北限域の沈水サンゴ礁性堆積物**

松田博貴，荒井晃作，町山栄章，井龍康文，辻　喜弘

現在のサンゴ礁北限近傍に位置する奄美大島北方ならびに喜界島南西方海域において，氷期にもサンゴ礁が存在したか否かを明らかにするために，高解像度音波探査を実施した．その結果，奄美海脚の中央部ならびに東側の陸棚縁から陸棚斜面上部にかけて，海底面直下のよく成層した堆積物中に，比高15 m，幅400 m程度のマウンド状高まりが，複数存在することが明らかとなった．これらは，強反射面と不明瞭な内部構造に特徴づけられ，サンゴ礁あるいは粗粒炭酸塩堆積物であると考えられる．また喜界島南方沖の陸棚縁付近の海底面には，不規則な地形的高まりが確認された．以上の結果から，これらのマウンド状高まりは，最終氷期に形成されたサンゴ礁の可能性が指摘される．

Key Words : coral reefs, high-resolution seismic survey, Kuroshio, Last Glacial Maximum, Ryukyu Islands.

**9. Fluid inclusion microthermometry for P-T constraints on normal displacement along the Median Tectonic Line in Northern Besshi area, Southwest Japan**

*Tetsuzo Fukunari, Simon R. Wallis and Toshiaki Tsunogae*

**西南日本別子地域北部における流体包有物解析から得られた中央構造線正断層運動の温度・圧力条件推定**

福成徹三，Simon R. Wallis，角替敏昭

中央構造線は三波川変成帯と領家変成帯を分かつ一次的なテクトニック境界である．この断層帯の大規模な北落ち正断層運動は三波川高圧変成帯の上昇に寄与した可能性がある．中央構造線の運動に関連して三波川帯中に発達した二次断層に付随する石英脈の流体包有物解析は，正断層運動が250度以上の温度条件で始まったことを示す．脈を構成する石英とカリ長石の微細構造も約300度で変形を受けたことを示唆し，流体包有物解析の結果をサポートし，変形の深度が10km程度であったことを示唆する．流体包有物の等容積線と三波川帯後退変成時の温度圧力経路は整合しない．周辺岩石の半塑性変形及び脈周辺の熱水変成の欠如から，岩石と流体の温度条件は同様であったと推定される．これらの観察は中央構造線近傍にて脈内の流体が静岩圧より低かったことを示唆する．

Key Words : exhumation of the Sanbagawa Belt, fluid inclusion, fluid pressure, Median Tectonic Line, microthermometry.

**10. CHIME monazite dating as a tool to detect polymetamorphism in high-temperature metamorphic terrane: Example from the Aoyama area, Ryoke metamorphic Belt, Southwest Japan**

*Tetsuo Kawakami and Kazuhiro Suzuki*

**高温変成帯における複変成作用を検知するツールとしてのCHIMEモナズ石年代ー領家変成帯青山高原地域の例**

河上哲生，鈴木和博

領家変成帯青山高原地域において，砂泥質ミグマタイトと阿保花崗岩（新期領家花崗岩）のCHIMEモナズ石年代測定を行った．その結果，ミグマタイト中のモナズ石は，主としてコアで96.5±1.9 Maの年代を，リムやパッチ状の若返り部で83.5±2.4 Maの年代を与えた．83.5±2.4 Maの年代は，砂泥質ミグマタイトが卓越するザクロ石－菫青石帯のモナズ石で広く観察された．また，阿保花崗岩は79.8±3.9 Maを与えた．砂泥質ミグマタイトに見られる83.5±2.4 Maの年代と，阿保花崗岩の年代の良い一致は，阿保花崗岩を含む新期領家花崗岩による熱的影響および流体活動の影響が，広くザクロ石－菫青石帯全体に及んでいたことを示している．ザクロ石－菫青石帯に対する接触変成作用がこれまで変成鉱物組合せから見いだされていなかった理由は，ミグマタイトが接触変成作用を受ける前に，既に高温のザクロ石－菫青石組合せを有していたためであろう．その一方で，モナズ石には接触変成作用が明瞭に記録されている．従って，グラニュライト相の変成岩に対する角閃岩相高温部の接触変成作用など，主要な変成鉱物の成長によって認識することが困難な複変成作用を認識するためのツールとして，野外でのCHIMEモナズ石年代の広域マッピングは威力を発揮するだろう．

Key Words : electron microprobe dating, fluid, migmatite, monazite, polymetamorphism, rejuvenation.

## 院生コーナー

### *XI* International Ichnofabric Workshop（Spain, July 1-5）参加報告

泉賢太郎
東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
修士課程二年

### ワークショップについて

*XI* International Ichnofabric Workshopが2011年７月１日から７月５日にかけて北部スペインのアストゥリアス自治州にて開催された．代表コンビーナはグラナダ大学のFrancisco J. Rodríguez-Tovar 教授が務めた．ワークショップ会場はMUJA（MUSEO DEL JURÁSICO DE ASTRIAS）という博物館であり，街の景色を一望できる非常に素晴らしい会場であった．このワークショップは，生痕化石（もしくは現世生痕）に関する研究のディスカッションを目的とした研究集会で，２年ごとに場所を変えて開催される．今回は20カ国以上から55人程度の研究者が出席した．日本からは筆者のほかに，高知大学の奈良正和准教授・港湾空港技術研究所の清家弘治博士が参加した．このワークショップの口頭発表では，発表10分に対して５分の質問時間が設けられており，参加者の研究それぞれに対して活発な議論が展開された．またポスター発表に対するディスカッションは，一日に２回あるコーヒーブレイクの際に行われた．

今回のワークショップでは，生痕（化石）を共通のキーワードとして，世界各国の幅広い時代（エディアカラ紀～現世）・幅広い環境（陸域～深海）とした研究が報告された．また，２件の招待講演（カナダのLuis A. Buatois教授による堆積物と底生生物との相互作用に関する講演，スイスのAndreas Wetzel教授によるコア中の現世生痕と海洋環境との関連性についての

**写真１　El Tranqueru sea cliffsの中部デボン系堆積物中に見られる生痕相を観察する参加者たち．筆者撮影．**

**写真２　Dinosaur Coastに産出する恐竜の足跡化石．筆者撮影．**

**写真３　シードラ製造工場を訪れる参加者たち．この後，参加者たちには工場で造られたシードラが振る舞われた．筆者撮影．**

講演）も行われた．筆者は初日の午前中のセッションで，山口県豊浦地域に分布する下部ジュラ系浅海堆積物の生痕相や堆積相を用いた古海洋環境復元に関する口頭発表を行った．初日の発表だったため，その後は非常にリラックスして過ごすことができ，研究内容についても多くの海外の研究者と議論することができた．発表全体としては，生痕化石を用いた古生態や古環境の復元・生痕相の記載的研究・現世生痕を用いた生態学的な研究といったものが多かったが，GISを用いた生痕の地理的分布・生痕化石の三次元形態復元・生痕化石のデータベース化などコンピュータを駆使した研究も少なからずあったのが印象的であった．

そして，ワークショップの最後には，来年の夏にカナダで開催されるThe Third International Congress on Ichnology（Ichnia 2012）に関する告知や，次回のワークショップの開催地を決める会議が行われた．

またこのワークショップの開催に当たっては，スポンサーとしてGovernment of the Principality of Asturias Regional Ministry of Culture and Tourismの協力を得ており，学会の様子は地元の新聞に掲載された．

## 巡検について

今回のワークショップでは，研究発表の他に巡検が非常に充実しており，ワークショップ中の巡検だけでなくポスト巡検も行われた．巡検の筆頭案内者は，MUJAのJosé Carlos García-

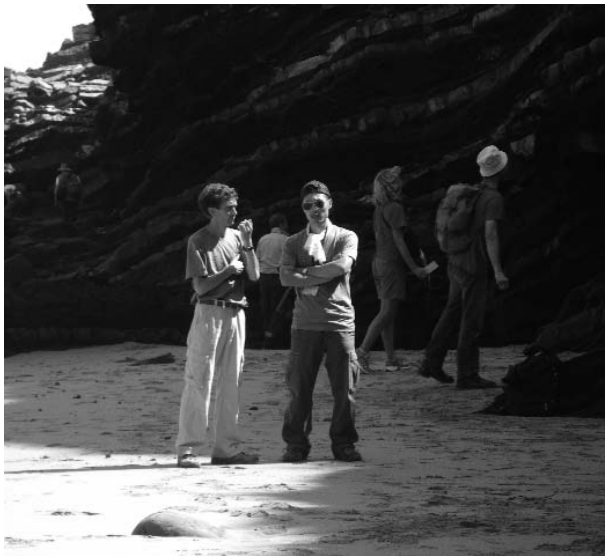


**写真４　Vega beachでの巡検中に，ワークショップの代表コンビーナFrancisco J. Rodríguez-Tovar教授と自身の研究内容を議論する筆者．両者ともに，ワークショップの記念Tシャツを着用していた．港湾空港技術研究所の清家弘治博士撮影．**

Ramos博士が務めた．筆者は両巡検ともに参加したので，その様子を報告する．中日巡検は７月２日に行われ，Candás地域のEl Tranqueru sea cliffsを訪れた．ここでは，中部デボン系の砕屑性浅海堆積物が海岸沿いに露出しており，約半日かけて海岸沿いを歩き，堆積相や生痕相を観察した（写真１）．ポスト巡検は７月４日～５日にかけて行われ，Ribadesella地域のVega beach，Villaviciosa地域のVillar sea cliffsやEl Puntal sea cliffsに露出する下部ジュラ系堆積物の堆積構造やそこに含まれる生痕化石の観察を行った．そして巡検最終日には，恐竜の足跡化石産地として有名な“Dinosaur Coast（Colunga 地域のLa Griega beachの下部ジュラ系陸成相）”を訪れ，竜脚類と獣脚類の足跡化石を間近で観察できた（写真２）．特に竜脚類の足跡化石については，直径が１m以上もある巨大なもので，それらを目当てに多くの観光客も訪れていた．Dinosaur Coastでは，アメリカのAntony A. Ekdale教授が地元の記者に取材を受けており，その内容が地元インターネットニュースに掲載された（しかしその記事では，Ekdale教授の名前が“Ekdape”に間違えられていたようである…）．

今回の巡検では野外地質巡検だけでなく，MUJAの標本観察の機会や地元の観光名所を巡るツアーも企画されていた．シードラ（＝リンゴ酒）製造工場，世界遺産に登録されているSanta Maria del Naranco教会や Tito Bustillo洞窟などを訪れ，アストゥリアス地方の歴史や文化に触れることもできて，非常に有意義な巡検となった（写真３）．

## まとめ；全体を通して

このワークショップは他の国際学会に比べて規模こそ小さいものの，その代わり参加者全員と顔見知りになることができた．また，他の学会と異なる点としては，口頭発表は全て同じ部屋で行われるということが挙げられる．このため参加者は，全ての口頭発表を聞くことが可能であった．そして巡検の際も一つのバスで移動をしたため，ワークショップ期間を通じて全ての参加者が同じ時間（発表や巡検，そして食事でさえも！）を過ごすことができ，深く交流・議論を交わすことができた（写真

4）．さらに，一部の参加者とはホテルまでも一緒だったため，朝から深夜（北部スペインは日が長く，夕食は9時頃から12時以降まで続く）まで行動を共にすることとなり，非常に濃密な時間を過ごすことができた．

筆者は修士一年の春に生痕化石に興味を持ち始め，冬頃からその研究を開始し現在も研究進行中である．生痕化石は過去の生物の行動の記録が地層中に保存されたものであるため，それを解析することで古生物の生態を解明することができる．筆者は現在その研究の魅力に取りつかれており，今後も生痕化石（もしくは現世生痕）の研究を続けていこうと思っている．その筆者なりの決意表明として，世界の生痕研究者が集う今回のワークショップへ参加した（筆者にとっては，国際的な初陣と言える）．ワークショップ前はかなり緊張していたが，実際に世界の生痕研究者たちと触れ合ってみると，彼らは非常に気さくな人たちであった．ワークショップ期間の終盤になる頃にはすっかり打ち解けて，日本に帰りたくないとすら思うようになっていた．しかし，時間の流れには抗えずにワークショップも終わりを迎え，参加者との別れを惜しみつつスペインを後にした（その際，筆者は初めて欧米風の別れの挨拶であるハグを経験した）．

このワークショップ全体を通して，筆者は大きな刺激を受けることができた．これをきっかけにして，今後の研究にますます精を出して取り組んでいくことを誓う．次回のワークショップは，2013年にトルコで開催されることが決まった．それまでに一回り成長して，今回知り合った研究者たちと再会したいと思う．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の4名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

| | |
|---|---|
| **k1799462@kadai.jp** | **中谷大輔（鹿児島大）** |
| **b.honda@ruri.waseda.jp** | **本田豊也（早稲田大）** |
| **yhamada@eps.s.u-tokyo.ac.jp** | **濱田洋平（東京大）** |
| **gsc421511@s.okayama-u.ac.jp** | **湯川弘一（岡山大）** |

## 支部コーナー

### ☆東北支部　お知らせ

#### 東北支部2009～2010年度<br>総会と個人講演会のお知らせ

東日本大震災のため延期となっていました東北支部の総会を以下の会場と日程で開催します．個人講演では，研究成果等の口頭・ポスター発表を募集します．また，17日夜には懇親会を予定しています．これらの申し込みについては，この記事の後半をご覧いただき，所定の期日までに申し込みください．

プログラムの詳細については，ニュース誌11月号でお知らせする予定です．多くの皆さんの参加をお待ちしています．

会場：福島駅周辺の施設もしくは福島大学を予定
日程
**2011年12月17日（土）**
13:00～14:00　東北支部2009～2010年度総会
14:15～15:45　2013年仙台大会にむけて
16:00～17:00　個人講演（口頭発表）
18:00～　懇親会

**2011年12月18日（日）**
9:00～11:00　個人講演（口頭発表）
11:00～12:00　ポスター発表コアタイム
12:00　解散

＊個人講演，講演要旨と懇親会については，次の宛先まで電子メールまたは郵便で申込みください．
1）個人講演の申し込み：講演タイトルと著者名を10月24日（月）までに連絡してください．口頭講演は発表12分，質疑3分の予定です．
2）講演要旨：A4・縦置きで，1講演あたり1～2ページで作成し，pdfまたはMSワードファイルまたは印刷したものを12月5日（月）までに送付ください．
3）懇親会：12月5日（月）までに連絡ください．

個人講演・懇親会の申込みと講演要旨の送付先
〒960-1296　福島市金谷川1番地
福島大学共生システム理工学類　長橋良隆
E-mail：nagahashi@sss.fukushima-u.ac.jp

### ☆関東支部　案内

#### 城ヶ島巡検のご案内（第2報）

「城ヶ島たんけんマップ‐深海からうまれた城ヶ島‐」発行を受けて行う普及教育巡検です．会員の方はもとより広く一般の方も参加対象とし，意見の交換や増補改訂版作成の参考にいたします．
日時：2011年11月19日（土）（小雨決行，荒天時中止）
場所：神奈川県三浦市三崎町城ヶ島（昼食持参）
集合：城ヶ島バス停（城ヶ島行バスの終点）に午前10時
　京急三崎口駅9：11発のバスがあり，9：33発が最終．
　自家用車の場合は島内に駐車場あり．
解散：午後3時頃島内にて解散
対象：会員および一般
講師：蟹江康光氏（元横須賀市自然・人文博物館）
　山本由弦氏（海洋研究開発機構）
　柴田健一郎（横須賀市自然・人文博物館）
　鈴木　進（三浦半島活断層調査会会員）ほか
申込み：住所・氏名・生年月日（保険に使用）および中止時の連絡先をご記入の上，下記問合せ先にE-mailまたはFAXでお申し込み下さい．件名は「関東支部城ヶ島巡検」として下さい．
締め切り：11月15日（火）．
参加費：1,000円（当日集金）．
問合せ先：神奈川県立生命の星・地球博物館　学芸部
　笠間友博（関東支部幹事）
　〒250-0031小田原市入生田499
　電話0465-21-1515，FAX 0465-23-8846
　E-mail: kasama@nh.kanagawa-museum.jp

# 学　会　記　事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています．

## 一般社団法人日本地質学会
## 2010年度第４回理事会議事録

日時：2011年４月２日（土）　13:00～17:00
会場：北とぴあ　902会議室（９階）（東京都北区王子，王子駅北口下車　２分）
出席役員　理事（30名）：宮下純夫会長，久田健一郎副会長，渡部芳夫副会長，天野一男，安藤寿男，石渡　明，井龍康文，上砂正一，永広昌之（14時半），小山内康人，狩野彰宏，北原哲郎，小嶋　智，斎藤眞，高木秀雄，竹内　誠，内藤一樹，中井均，楡井　久（16時），平田大二，藤林紀枝，藤本光一郎，星　博幸，保柳康一，松岡　篤，松田博貴，松原典孝，向山，栄矢島道子，山口耕生
監事（１名）：青野道夫
欠席役員　理事（19名）：伊藤谷生，太田泰弘，奥平敬元，紺谷吉弘，坂口有人，榊原正幸，佐々木和彦，柴　正博，芝川明義，高橋正樹，竹下　徹，田近　淳，田村嘉之，西　弘嗣，福冨幹男，村田明広，山田泰広，林　愛明，脇田浩二
監事（１名）：山本正司
その他出席者　オブザーバー：山本高司会員（関東支部幹事）事務局：橋辺
＊成立要件：理事総数49名の過半数　25名，本日の出席者　30名で本理事会は成立．
＊議決：前半/出席者の過半数15名，後半/16名
＊始めに書記として狩野彰宏理事・松岡　篤理事を選出．

**報告事項**

１．執行理事会報告（第７回～10回議事録参照）
　藤本常務理事より第７回～第10回執行理事会議事録に基づき要点の説明があった．
２．個別の報告
(1) 2011年度永年会員（50年）顕彰者　11名：1961年の入会者
　今永　勇　井本伸広　岩松　暉　小林治朗　中村保夫　名取博夫　野村　哲
　古川博恭　真野勝友　渡辺　勇　渡辺　亨
(2) 行事関係（水戸大会進捗状況及び大阪大会の組織構成など）
１）星行事委員長および天野実行委員長から日本地質学会・日本鉱物科学会合同学術大会（水戸大会）の計画について以下の説明があった．
・水戸大会は予定通り９月９日（金）～11日（日）に茨城大学で開催する方向で準備を進めているが，計画停電と放射能の問題により開催地変更を含めた大幅な変更がありえる．
・シンポジウム３件，トピックセッション20件，定番セッション25件を計画し，これらを地質学会扱い，鉱物科学会扱いのどちらかに割当て，発表申し込みを受け付ける（地質学会はシンポジウム３件，トピック12件，定番20件）．
・参加登録・要旨投稿の詳細はニュース誌４月号の予告記事を掲載．
・地震および災害への関心の高まりに対応し，市民講演会のテーマを「ジオパーク」から地質学的な内容を含めた「地震と津波＋放射能」へ変更，「ジオパーク」はトピックセクションで行う．また，LOC主催のシンポジウム「人類の危機を救う科学―地学は何が出来るか？」を地震災害にテーマを絞り，市民への公開を検討する．さらに，「東北地方太平洋沖地震の被害報告」を茨城大学で企画する．
・セッション発表について，従来の１人１件を見直し，発表負担金（1,500円）の支払いによりもう１件の発表を出来ることにする．また，共同発表の場合，発表者は筆頭著者に限定されない（筆頭著者に会員・非会員等の条件を付さない）ことが了承された．
２）2012年以降の大会について
・日本地質学会第119年学術大会（大阪大会，実行委員長：前川寛和）を2012年９月15日（土）～17日（月）に大阪府立大学で開催．第120年学術大会を2013年９月中旬（13～16日に会場を予約済み）に計画中であることが報告された．
３）編集出版部会関係
・小嶋編集委員長から地質学雑誌の「短報」の廃止についての報告があった．また，これに伴い短報を対象とする「小藤賞」の扱いについて議論する必要性が示された．
・井龍編集委員長からIsland Arc誌の編集状況とインパクトファクターについての説明があった．
４）連携事業委員会：一般社団法人日本地質学会行動規範（案）について
　渡部委員長から「倫理綱領」に加えて「行動と規範」を加える必要性が指摘され，その原案が報告された．
３．理事からの報告事項
　特になし

**審議事項**

１．2010年度事業報告
・藤本常務理事から2010年度の事業経過報告案が示され，支部活動の記載を付け加えた上で承認することとした．また，向山理事から2010年度の決算について，３月の集計が完了していないため，決算予想案に基づく説明があり，正式には会計監査を受けた決算案を総会に出すことが承認された．
　なお，2011年３月末現在の会員の動静は以下のとおりである．
　賛助：26　名誉：73　正会員：3,942（正会員：3,725　正（院割）会員：193　正（学部割）会員：24）合計 4,041．2010年３月末と比べて76名の減少で前回理事会以来の逝去者は，以下のとおりである
　名誉会員：深田淳夫，大森昌衛，松本徑夫
　正会員：田辺克幸，鈴木宇耕，濱田隆士，吉野言生
　これらの逝去会員ならびに東日本大震災の犠牲者の冥福を祈って黙とうをささげた．
２．2011年度事業計画および2011年度予算案について
・第３回理事会で承認された2011年度事業計画骨子について，震災へ対応するための改訂の必要性が生じた旨が宮下会長から説明された．そこで，震災への取り組みとして，1）被災会員，被災地域の大学・研究機関・博物館などに対する支援，2）災害に関する知識や情報の提供・発信，3）地質学的観点からの災害調査と大規模自然災害に対する学術研究の推進，4）学術会議，政府機関，一般社会に向けた提言を行うこと，を盛り込んだ改訂案が示され，承認された．
・上記の事業計画改訂を受けて，向山理事から2011年度の予算案が提示され，承認された．2010年度予算との主な違いは，1）震災関連の活動を支援する「特別事業費」が追加され，2）被災した事務局の什器補充等のために「雑支出」が大幅に増額されたことである．
３．名誉会員候補者の決定について
・名誉会員推薦委員会久田委員長から，2011年度名誉会員の選考経緯が説明された上で，候補者として５名（小畠郁生・倉沢一・松島信幸・猪郷久義・籾倉克幹会員）が推薦され，承認された．
４．各賞の決定について
・各賞選考委員会狩野委員長から，2011年度の地質学会各賞の選考経緯が説明された上で，学会賞・国際賞・小澤賞・柵山賞・Island Arc賞・小藤賞・功労賞・学会表彰については各１件，論文賞・奨励賞については各３件，合計14件が推薦され，承認された．また，審議経緯の中で，「学会表彰」・「国際賞」の規則が会員を応募対象としていない点が問題とされ，規則改正の必要性が示された．
５．各種規則の改正，策定について
　下記の各種規約の改正と策定について審議され，原案が承認された．電子出版刊行に関する細則については，藤本常務理事による修正提案について審議され，承認された．
・運営規則（改正）
・各賞選考規則（改正）
・男女共同参画委員会規則案（策定）
・地質用語国際標準対応委員会規則案（策定）
・連携事業委員会規則（改正）
・電子出版物刊行に関する細則（策定）
・倫理規定（法人版への策定日追加）
６．総会開催について
一般社団法人日本地質学会第３回総会を2011

年５月21日（土）14:00より総評会館で開催することとした．

７．連携事業委員会答申

・「(独）原子力安全基盤機構柏崎震源域掘削調査の技術評価委員会」契約について

渡部委員長より，独立行政法人原子力安全基盤機構から申し入れられた，柏崎掘削調査への技術評価活動についての一括請負契約を受け入れる旨が説明され，承認された．なお，契約に際しては，本学会の成果公表と知財権が担保されること，実際の契約締結と管理は執行理事会が担当すること，中間的な検討内容を理事会に報告して本学会員の研究活動に資すること等を要望することとした．また，本契約の経理上の扱いについて向山理事から説明があった．

８．層序単元の承認について

・井龍理事より地域的な層序単元の承認に関わる「国家ごとの地質調査期間・組織や委員会」の組織の必要性が提案され，議論した．

・これに関連して，産総研地質調査センターが運営する地質名検索データベースを利用する方法が斉藤理事より提案され，運用に際してはデータの採録基準や手順を明確化する用意がある旨が説明された．

９．第６回国際地学オリンピック日本大会の開催支援について

・久田副会長を通じて，国際地学オリンピック2012組織委員会から，地質学会に対して財政的支援の要請があった．これは，震災の影響により，当委員会において当初予定していた企業からの寄付金が期待できない状況が発生したためである．地学オリンピックは地質学の普及に貢献する事業であるため，財政的支援の可能性について議論されたが，金額的に大きいことや震災関連事業をより優先すべきであるなどの指摘があった．学会としては可能な援助は検討するが，金額は明示しないこととした．

10．その他

１）「東日本大震災に関する地質学からの提言」について

・宮下会長より，自然災害に対する地質学的観点での研究の重要性と，地学教育の地位向上についての提言が文書で示され，これを基本的に承認した．津波堆積物の研究が古くからあることをアピールすることや，AGU, IUGSからのメールに返答する必要があるといったコメントがあった．

以上，この議事録が正確であることを証するため，議長および出席理事は次に記名，押印する．

---

## 一般社団法人2011年度<br>第１回理事会議事録

日時：2011年５月21日（土）15:45～17:00

会場：総評会館201会議室（２階）（東京都千代田区神田駿河台３-２-11，御茶ノ水駅，新御茶ノ水駅）

出席役員　理事（31名）：久田健一郎副会長，渡部芳夫副会長

天野一男，安藤寿男，石渡　明，伊藤谷生，永広昌之，小山内康人（16時退出），狩野彰宏，北原哲郎，紺谷吉弘，斎藤　眞，榊原正幸，坂口有人，佐々木和彦，柴　正博，高木秀雄，高橋正樹，竹内　誠，田村嘉之，内藤一樹，中井　均，平田大二，福冨幹男，藤林紀枝，藤本光一郎，星　博幸，保柳康一，向山　栄，山口耕生，脇田浩二

監事（２名）：青野道夫　山本正司

欠席役員　理事（15名）：宮下純夫会長，井龍康文，上砂正一，太田泰弘，奥平敬元，小嶋　智，芝川明義，竹下　徹，田近　淳，西　弘嗣，楡井　久，松岡　篤，松田博貴松原典孝，村田明広，矢島道子，山田泰広林　愛明

その他出席者　事務局：橋辺

＊成立要件：理事総数49名の過半数　25名，本日の出席者31名で本理事会は成立．

＊議決：出席者の過半数16名

**審議事項**

１．理事会議長・副議長の選出

2011年度理事会議長として竹内誠理事，副議長に榊原正幸理事を選出した．

２．各賞選考委員について：選考委員会規則

各賞選考委員の任期について藤本常務理事より，2010年度の第１回執行理事会において，理事の改選に合わせ２年任期とすることが審議されていたにもかかわらず，理事会への提案がなされていなかったため，改めて今理事会において承認を求めたい旨の説明があった．その結果，各賞選考委員会規則を変更し，委員の任期を２年とすることが承認された．これに伴い，前年度第１回の理事会において選出された選考委員全員の任期の継続が承認された．具体的には規則２項２）の改正で，以下のとおりとなる．

＜各賞選考委員会規則＞（抜粋）

２．各賞選考委員会（以下選考委員会という）は，理事会が推薦する10名の委員と前・現地質学雑誌編集委員長および前・現副委員長，Island Arc前・現編集委員長で構成する．

１）理事会推薦委員の10名は，専門を考慮して理事の互選により選出し，委員長はこの委員間の互選とする．

２）理事会推薦委員の任期は２年とし，１年ごとに半数改選とする．

３．選挙管理委員会委員の選出：2012年度代議員および役員選挙

選挙管理委員の候補者として以下の会員の方々の提案が執行理事会より示された．

委員候補者氏名の開示に関し多少の意見交換があったが，問題ないとして承認された．

候補者：氏家恒太郎（筑波大学），兼子尚知（産総研），高橋　聡（東大），守屋和佳（早稲田大），和仁良二（横浜国立大学）

４．受託業務に係る受託研究取扱規則案，受託研究国内旅費細則・受託研究謝金細則について

向山理事より受託業務に係る規則案ならびに二つの細則の策定が提案された．

取扱規則については，受託経費の管理費の割合（高すぎるのでは），知的所有権の帰属に係わる発注者・受注者・調査研究者の関係，成果物に係わっては守秘義務，守秘義務のある受注等について質問や意見が交わされた．また，謝金細則については，謝金の基準額，会計上の監査体制や課税等についての意見が交わされた．現行例や他機関の規則等も参考にしつつ策定したことや，数字的なことは“基準”であり，とくに一般的な常識から外れているということではないことなどが説明された．

その結果，表記の１規則案と２細則案は修正もなく承認された．

５．地質学雑誌編集出版規則の制定

提案者の小嶋理事：地質学雑誌編集長に代わり藤本常務理事から，本議案の提案について趣旨説明がなされた．要点としては，1）最近の投稿・編集・出版事情に即した変更，2）短報の廃止による変更，3）文献例を規則からはずし細則とする，4）特集号の申込書から“前文”を削除，5）数式の書式に関する細則を新たに追加，などがあげられる．

規則の表題も含め，修正変更ではいけないのか，規則の英文版策定の質問については，従来からも検討課題であることなどの意見が交わされ，“編集規則”を廃止し，“地質学雑誌編集出版規則”を設けることが承認された．

６．東日本大震災対応作業部会の設置と対応について

・４月２日の理事会における，東日本大震災に関する会長提言，2011年度の事業計画に盛り込まれた震災への取り組み，また，関東支部からのを臨時特別委員会の設置の提案等を受けて，執行理事会のもとに「東日本大震災対応作業部会」が設置されたこと，作業部会が出した検討報告についての今後の対応，取り扱いについての議論を本理事会において行うことが，藤本常務理事から説明された．

作業部会委員：池田安隆・伊藤谷生・佐藤比呂志・重松紀生・宍倉正展・中山俊雄・平田　直（非会員）・藤井敏嗣・藤本光一郎（幹事）・山本高司（幹事）

・今後の議論にたいし，地質学的立場からも参加できるよう，議論をしておきたい，水戸大会においても大いにこの点を議論したいと考える，提言の対象を考えて整理すべ

き，防災や土地利用の観点からの検討がなければ役に立たない，大規模土地改作を行ったところに大きな被害があると，元の土地，地形が露わになり，その状況がハザードマップにもなり得るなど，防災や社会貢献の観点からの意見が多く出された．

7．その他

1）地質災害委員会委員長の選出について

斎藤副常務理事より，地質災害委員会委員長選出の提案があり，斎藤氏を委員長とすることを承認した．また，委員候補選出を斎藤委員長に一任した．

**報告事項**

1．執行理事会報告

議事録より要点のみ説明

2．その他

1）ジオパーク支援委員会（高木）

1．第12回地震火山こどもサマースクール（地震学会・火山学会・地質学会共催イベント）

実行委員長：竹谷陽二郎，

委員：中川和之（地震学会）・星住英夫（火山学会）・高木秀雄（地質学会）ほか

開催日　2011年8月6，7日

開催地　磐梯山（会場は，国立磐梯青少年交流の家の予定）

地震火山こどもサマースクール

HP　http:// www.kodomoss.jp/

2．ポスターとともにパンフレットを作成，学会HPからpdfファイルでダウンロード可能．

3．日本ジオパーク委員会（JGC）

・今年の日本ジオパークネットワーク加盟申請は，次の7地域．5月23日の連合大会のジオパークセッション後半にJGC主催の公開プレゼンテーションを実施．その後JGCで書類・プレゼン評価を行う．

男鹿半島・大潟，磐梯山，茨城県北，秩父，下仁田，白山手取川

・世界ジオパークネットワーク（GGN）加盟申請（国内審査）は，隠岐ジオパーク（なお，今年GGNから視察・審査を受けるGGN加盟申請中の地域は室戸ジオパーク）

4．ジオパーク関連カレンダー

・第2回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会 2011年9月29日～10月1日

・第5回ジオパーク国際ユネスコ会議 島原半島ジオパーク　2012年5月12日～15日

---

## 2010年度
## 第9回執行理事会議事録

期日：2011年2月12日（土）13:00～18:00

場所：地質学会事務局

出席者：宮下会長　久田副会長　渡部副会長　藤本常務理事　井龍　小嶋　石渡　坂口　高木　内藤　中井　藤林　向山　各理事，（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：齋藤副常務理事　西（→　井龍）平田　星　山口

＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者　名，委任状4名，合計　名の出席により執行理事会開催は成立．

＊前回議事録の承認

**Ⅰ　審議事項**（関連する報告事項と合わせて説明）

1．連携事業推進委員会について

12月の理事会で決めた方向で委員会を立ち上げ，手続きなどの整備を進めている．

2．JNESの評価部会（仮称）の設置及び委員候補者の選出

佐藤比呂志会員，山路　敦会員，品田　正一会員，伊藤谷生会員，小嶋　智会員，井龍康文会員，関　陽児会員

3．連携事業の推進にあたって踏まえるべき組織規範等

倫理綱領に加えて，それを実現するうえでのもう少し細かい行動規範のようなものを作成する．キーワードとして，透明性・説明責任・公益性・中立公正など．

4．短報の廃止と速報の新設について（小嶋理事）

「短報」と「論説」の相違が事実上ないことから，地質学雑誌の「短報」というジャンルを廃止するとともに，新たに研究のインパクト性を重視した「速報」というジャンルの新設が編集委員会から提案された．「短報」の廃止については執行理事会として了承したが，「速報」の新設については執行理事からも異論が出され編集委員会内での再検討を要請した．

なお，短報の廃止に伴い，「小藤賞」についても賞の性格の変更を検討することとした．（→　審議事項8項2）を参照）

5．Island Arcに連合の名称を協賛団体として掲載する件に関して（井龍理事）

連合の名称はいれるが，ロゴはいれないという方向で調整を進めることとした．

6．新規出版企画の提案（高木理事）

1）ジオパーク支援委員会から，日本列島の地質や地史を簡潔にまとめた小冊子の要望が高いことを受け，地質学会の企画出版物として編集体制から検討することとした．英文版も可能なら同時に進める．

2）構造地質部会として，断層アトラスの出版を計画中との報告があり，来年度事業として取り組むこととなった．

7．電子出版について（坂口理事）

12月の理事会で承認された電子書籍出版を行うための概要や出版のフロー，フォーマット，販売方法などについて，検討案が示され，基本的に了承した．

8．その他

1）林原グループの古生物学研究に関する要望

林原グループの経営破綻によって同グループ林原生物化学研究所の古生物学研究への影響が懸念されている．林原グループの関係者に向けて，生物化学研究所の研究を高く評価するとともに，今後の整理において人的資源や標本，資試料などの扱いについては，学術的評価を重視し，関係国等にも配慮するよう要望することとした．

2）地質学会の表彰について以下の点の改正を行うこととした．

・地質学会運営規則の改正

＊「小藤賞」は，その表彰対象を地質学雑誌掲載の短報に限らず，会員による，重要な発見や独創的な発想を含むすべての論文を対象とする．また，賞の名称は「小藤賞」を「小藤文次郎賞」と変更する

＊日本地質学会表彰の対象を非会員だけではなく，会員も表彰対象とする．

・各賞選考規則も12月の理事会の議論を踏まえて改正を検討する．

3）2011年度総会会場は総評会館（お茶の水）とすることを決めた．

・開催時間　14時～15時半

・議案

・総会終了後　新年度第1回目の理事会を開催予定

4）ジオパーク支援委員として推薦：澤口隆会員

**Ⅱ　報告事項**

**(1) 運営財政部会：総務委員会**

＜共催・後援その他依頼・要請等＞

1）科学教育研究協議会 第58回全国研究大会（於　宇都宮大学，8/5～7）の後援依頼

＜その他＞

1）地球化学研究協会より，学術賞「三宅賞」，「奨励賞」候補者募集案内（8/31必着）

→HP，News等に掲載（学会への申請は6/30）

2）原子力総合シンポジウム（共催，5/25）の開催案　→HPのリンク等で対応

3）朝永振一郎記念第5回「科学の芽」賞実施報告：応募数1,375件（個人1,323，団体52）受賞件数42件（小中高合わせて，個人36，団体6），その他奨励賞，努力賞，学校奨励賞は115件

4）日本学術振興会「育志賞」受賞者決定，地球化学系の受賞者はなし．同じく「日本学術振興会賞」受賞者決定，25名中，地球科学系1名．

＜会員の動静＞

1）今月の入会者

正会員（4名）野口幸夫，加藤久美，星康彦，小城祐樹

2）今月の退会者・逝去者

退会者（正1名）　冨田　覚

逝去者（4名：名1，正3）

名誉会員：大森昌衛（1/3）

正会員：鈴木宇耕（1/12），濱田隆士（1/12），吉野言生（2010/11/25）

3）1月末日会員数
賛28　名誉73　正会員4,137（内訳：正3,913，院割 200，学部割 24）合計4,238（昨年比 －118）
＜会計＞
1）合同大会の会計について，業務委託も含め鉱物科学会担当者と面談し説明した．
**(2) 広報部会：広報委員会**
・第2回惑星地球フォトコンテスト応募数：約426件（昨年並み）
**(3) 学術研究部会：行事委員会（星）**
1）水戸大会について
・茨城大学より正式に共催承諾の回答があった．共催によって大学施設使用料は無料であるが，冷房等のための電気使用料の実費負担がある．
・合同大会として，両学会の擦り合わせと具体的な事務処理等の検討については，会計担当者との話し合い以外には，具体的な進展はない．2/5に鉱物科学会のほうで会議があったとのことで，その報告待ち状態．発表申し込み，参加登録などの実際的な面での合意が得られていないので，それらの準備など事務作業的にもストップ状態である．
**(4) 学術研究部会：国際交流委員会（石渡）**
1）「はやぶさ」微粒子分析結果発表関連のJAXAへの要望書とJAXAからの回答をジオフラッシュ，News誌に掲載．
2）地質用語国際標準対応委員会（井龍理事）
JIS改正に合わせて検討を開始．
地質時代の日本語名称についても検討中
**(5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）**
1）編集状況報告（2月9日現在）．
2011年度投稿論文　総数11編［総説2（和文2），論説7（和文7），ノート2（和文2）］口絵2（和文2）
査読中44編　受理済み　23編（うち通常号4　特集号19）
・117巻2月号：論説2・短報1・ノート1・口絵1（43ページ・校正中）
・117巻3月号：特集号「モデル実験で探る地形・地層形成過程のダイナミクス」（世話人：横川美和ほか）（入稿準備中）
2）短報の廃止と速報の新設の提案（→審議事項：別紙資料）
**(6) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会　（井龍編集委員長）**
・編集状況の報告
**(7) 編集出版部会：企画出版委員会　（担当：山口，藤林）**
・地質リーフレット4「日本列島と地質環境の長期安定性」（1月15日）が刊行された．
・「地質リーフレット」としてISSN番号を取得：2185-8543
・地質リーフレットの新規企画申請があり，リーフレット企画出版委員会に検討を依頼した．
**(8) 社会貢献部会（藤林）**
1）地学教育委員会（中井）
・水戸大会での“小さなEarth Scientistのつどい”について
水戸大会準備委員会が企画している県内高校生の「理科発表会」とは，会場は同じにするが，別個の催しとして実施する方向で検討する．
・中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会の審議経過報告（平成23年1月31日）について教員養成学部以外における中高の教員養成にどのような影響があるのかを注視することとした．
2）5月14日（土），地質の日の行事と執行理事会の開催について
5月14日13時30分～15時で講演会＋フォトコンテスト表彰
終了後（15時以降17時頃まで）に，執行理事会を開催する．
**(9) 地学オリンピック支援委員会（久田）**
日本大会はつくば大学も共同主催となる．
今後募金活動を本格化するため，免税等の措置などについても検討中．
文科省から，正式な科学オリンピックとして認められた．

---

## 2010年度
## 第10回執行理事会議事録

期日：2011年3月5日（土）13:00～17:00
場所：地質学会事務局
出席者：宮下会長　久田副会長　渡部副会長　藤本常務理事　齋藤副常務理事　井龍　小嶋　石渡　内藤　中井　星　向山　山口　各理事，（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：坂口　高木　西　平田　藤林
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者13名，委任状5名，合計18名の出席により執行理事会開催は成立．
＊前回議事録の承認

**Ⅰ　審議事項**（関連する報告事項と合わせて説明）
1．連携事業について
原子力安全基盤機構からの要請で地質学会から派遣する柏崎調査への技術評価委員候補が了承されたとの報告があり，同時に学会への一括委員委嘱手続きに替えて，評価活動の委託契約として契約したいとの打診があった．基本的には理事会で承認された活動内容であり，例示された契約内容も当初の評価委員会活動であるため，基本的に了承した．直ちに連携事業委員会の案件として検討し，4月の理事会に答申し，承認を得て契約に至ることを確認した．
また，並行して経費の見積もり等を策定して機構と契約内容を固め，同時に理事会に提出することとし，見積もり案の作成は執行理事会運営財務部会が担当することとした．
2．各賞に関し，運営規則，各賞選考規則，各賞選考委員会規則の改正について
1）古藤賞の名称および内容変更について
運営規則にある小藤賞（短報賞）を重要な発見を対象に，小藤文次郎賞として，論文（地質学雑誌に限らない）に対象範囲を広げ，対象年数も2年以内とする．選考検討委員会は作らない．
2）各賞選考規則について
・推薦者に理事会が入っている賞については，理事会推薦を外し，新たに専門部会を推薦者に加える．
・国際賞の受賞対象者として，非会員の制限を外す．
・各賞の応募方法の項に名誉会員を加えるか検討する．
3）支部が独自に，支部で功績のあった人を表彰できることについては，運営細則の第4章支部に記載する．
3．電子出版について（坂口・山口理事）
書籍の刊行について，その手続き等を定める規則案について，広報と企画出版委員会より提案があり，検討の結果，再度，検討要することとなった．
・何を対象にするか定義が必要．著者の持ち込み原稿を対象にして，地質学会が発行するというもの．著者にとっては名義がとれるメリットがある．
・著者，出版社，編集者，監修者として地質学会の名前が出版物に表示される物．
著作人格権は本人について回るので，著作財産権，著作隣接権（出版権等）は学会が持つと書くだけでいいのではないか？
・地質学会と著者の間で出版物ごとに契約を結んで詳細をつめることも考えられる．
4．4月2日，理事会議事次第の検討
＜報告＞
1．執行理事会報告（第7回－10回議事録参照）
2．個別の報告（各賞選考委員会，名誉会員推薦委員会など）
3．理事からの報告事項（短報の廃止，大会の進捗）
4．その他

＜審議事項＞
1．2010年度事業報告
2．2011年度事業計画および2011年度予算案
3．名誉会員候補者の決定について
4．各賞の決定について
5．運営規則，理事会規則？その他関連規則の改正について
6．地質用語国際標準対応委員会（仮称）の設置について
7．男女共同参画委員会規則案
8．総会議案について（5月21日，総評会館）
9．連携事業推進委員会について
10．その他
5．その他
1）山田科学振興財団の研究助成に対する，2名の会員の応募について．地質学会は今

回から新規の推薦団体となり，３件まで推薦することが認められている．

１件については，タイトルの不備や，科研費，他財団に同様の申請があることなどについて，申請者に対して確認・修正を求める．そのうえで推薦を諾とすることとした．

２）水戸大会関連事項

・水戸大会見学旅行案内書冊子版の作成検討実行委員会の担当委員会より刊行計画書とともに印刷経費概算見積書が提出された．審議の結果了承することとした．表紙に「合同学術大会」であることを明記する．印刷所の選定は見積り価格によって契約する．

３）男女共同参画委員会規則

旧規約のうち評議員会→理事会としただけなので，他の規則と合わせるよう修正して，理事会に提案する．

## Ⅱ　報告事項

### (1) 運営財政部会：総務委員会

＜共催・後援その他依頼・要請等＞

１）地学教育学会より，地学教育フォーラム「地球を知れば知るほど，毎日が楽しくなる」（4/23，深田研研修ホール）の後援名義使用依頼を承諾．

＜外部の賞の募集＞

１）平成23年度東レ科学技術賞及び科学技術研究助成の募集　→HP，News誌，Geo-flashに掲載．また，今年度の東レ各賞の授賞式（3/16）への招待状，今年度は関係の受賞はなかった．

＜その他＞

１）学術振興会より，平成24年度採用分の特別研究員および特別研究員-RPDの募集案内　→HP，News誌，Geo-flashに掲載．

２）地質学会監修の「地学は何ができるか」が地学オリンピック委員会の推薦本として紹介された．

＜会員の動静＞

１）今月の入会者（２名）

正会員（１名）鈴木　進，正〔院割〕会員（１名）村田昌則

２）今月の退会者・逝去者

退会者（正１名）　佐々木聡子

※2011年３月末退会予定者名簿を回覧した．

逝去者　なし

３）２月末日会員数

賛28　名誉73　正会員4,135（内訳：正3,911，院割 200，学部割 24）合計4,236（昨年比 －121）

＜会計＞

１）３/４，会計委員会を開き，予算案作成に向けて検討した．

各支部等の事業においては，なるべく収入を上げてもらうよう要請する．特集号の早期公開費用の計上を検討する．

２）刊行済みのリーフレット４（地層処分）について，原稿の不備による重要な印刷ミスがあり，印刷のやり直しについて編集委員会より相談を受けた．検討のうえ，重要性に鑑み刷りなおしを承諾した．

### (2) 広報部会：広報委員会

・３/３　第２回惑星地球フォトコンテスト審査終了

応募総数426件　最優秀賞　１件　優秀賞　２件　入賞　15件

昨年並みの応募点数があり，作品のレベルも高い印象であった．

### (3) 学術研究部会：行事委員会（星）

１）水戸大会について

・発表申し込み・参加登録の窓口，講演要旨の発行，などの実際的な面について，早急に協議する必要がある．今後機動的に行事担当者レベルでの協議を行い，執行理事会に報告していく．

・トピックセッション応募数が大幅に増え，鉱物科学会と調整中．

・発表負担金を払えば２件目の発表を可能にする方向，及び発表申込者＝発表者とするが発表者＝筆頭の制限は外す方向で協議を進める（例：学生を筆頭にして教員がセカンド以下で発表できるようになる）．これらについては，今後の地質学会単独の大会でも採用する方向で検討する．

・共催シンポジウムについては，一般公開（有料）の方向で協議する．

### (4) 学術研究部会：国際交流委員会（石渡）

１）IUGG2011の広報について

今年のIUGGのLOCから広報について依頼があった．Geo-Flash，HPで宣伝することを了承．

今後は学会のHPの英語版の充実も検討する必要がある．

２）地質用語国際標準対応委員会（井龍理事）

JISの原案作成委員会に対応して活動中．委員会規約を早急に検討する．

### (5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）

１）編集状況報告（３月３日現在）．

2011年度投稿論文　総数14編［総説２（和文２），論説９（和文９），短報（和文１），ノート２（和文２）］口絵２（和文２）

査読中39編　　受理済み　17編（うち通常号９　特集号８）

・117巻２月号：論説2・短報１・ノート１・口絵１（43ページ・校正中）

・117巻３月号：特集号「モデル実験で探る地形・地層形成過程のダイナミクス」（世話人：横川美和ほか）（入稿中）

２）地質学雑誌の，トムソン社のWeb of Scienceへの収録は不採用となった．

ジャーナルの Citation Rateが低い，Referenceに日本語が多く検索ができない，の理由．後者については現状で何が問題なのかを問い合わせている状況．

### (6) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会　（井龍編集委員長）

・編集状況の報告

手持ち受理原稿が不足している状況．

### (7) 編集出版部会：企画出版委員会　（担当：山口，藤林）

・地質リーフレット４「日本列島と地質環境の長期安定性」（１月15日）が刊行されたが，活断層図及び凡例ほかに重要なミスが判明したので，検討・協議のうえ，会計担当理事の了解を得て，修正のうえ印刷をやり直すこととした．改正版は３月８日に刷り上がり予定．

・構造地質部会の出版計画は，「日本の地質構造百選」という内容で，項目提案も含めて写真を会員から公募することとなった．事務局の橋本善孝会員から構造地質部会のHPに情報が公開される予定．10月入稿，来年４月末までの出版をめざす．出版社は朝倉書店を予定．

・三浦半島の地質図リーフレットの要望がある．内容品質の担保が重要．

### (8) 社会貢献部会（藤林）

１）地学教育委員会（中井）

・水戸大会における教員巡検の実施に関し，当該巡検にのみ参加する人の年会参加費等について検討した．受付は全体と同じとし，参加登録費を払ってもらう．見学旅行の参加費は4,200円を予定している．見学旅行参加者の費用負担が高額とならないよう，この行事への補助を実施する．補助の詳細については急ぎ検討する．

２）地質の日

・５月14日の本部行事を，News３月号で広報予定．神奈川県博物館に共催依頼を出す．

３）技術者継続教育委員会

・委員長の交代について

５月の総会をもって，公文富士夫委員長から吉田孝紀委員長に交代する．

### (9) オリンピック支援委員会（久田）

・2012年の国際大会の日本開催に向けて，今年のイタリア大会の視察をする．坂口理事がオリンピック委員会広報小委員会のメンバーとして，出張する予定．

・企業からの募金を集めるため税制優遇の交渉している．

### (10) その他

㈱林原の経営破たんに関連して，同社および管財人に対し要望書を届けたことが報告された．

---

## 2010年度
## 第11回執行理事会議事録

期日：2011年４月２日（土）10:00～12:00

場所：北とぴあ　902会議室

出席者：宮下会長　久田副会長　渡部副会長　藤本常務理事　齋藤副常務理事　井龍　小嶋　石渡　高木　内藤　中井　平田　藤林　星　向山　山口　各理事，小山内理事会議長，竹内副議長，（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：坂口　西

当初，橋辺事務局長より事務局の３/11の地震についての被災状況の説明があった．棚等が倒れているので，今後耐震対策を行

う予定であることが向山執行理事から報告された．
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者16名，委任状２名，合計18名の出席により執行理事会開催は成立.
＊前回議事録の承認

Ⅰ　**審議事項**（資料は理事会の資料）
１．　各種規則案の確認（５号議案）
・運営規則について小藤文次郎賞を新設すること，日本地質学会表彰を会員・非会員を対象にすること，大部分の賞の推薦母体に専門部会を加えることなどの変更事項が確認された．また，賛助会員を推薦母体に加えるかどうかについて，次の検討課題としてはどうかとの意見が出された．
・男女共同参画委員会規則，地質用語国際標準対応委員会規則，連携事業推進委員会規則，は確認された．
・電子出版物刊行に関する細則については，電子出版と紙媒体の出版を同様には扱うのは難しく，同じ細則にすることが難しいので，別立てとした旨説明があった．　条文案を一部修正し，理事会に出すこととした．
・倫理綱領は任意団体のものをそのまま法人のものとしたので，法人としての制定日を付すこととした．なお，種々の規則においての制定日，改正日等の記載は，条文末ではなく，文頭におくこととした．
２．来年度の事業計画の再検討，特に東日本大震災に関連して
・博物館についての支援を追加する．
・激甚災害指定地域の被災会員の会費免除を行う．現在までの会員の安否確認として，２名：避難所，１名：明確な被災地域，３名：安否捜索中．家族ごと被災した会員は安否情報がでてこないのでチェックが必要．原発30km地域在住会員のチェックは未．
３．その他
１）三浦半島地質リーフレットの提案について（山口理事）
　企画出版委員会として検討の結果，提案を採用することとしたことが報告され，承認された．提案者への通知内容についても示され，検討の上修正を加えた．
２）国際地学オリンピックの開催について（久田理事）
　大震災に関連し，開催の可否について，現在さまざまな状況を考慮して検討中であるが，とくに大口スポンサーの東京電力をはじめ，スポンサーの確保が難しくなっていることが久田理事より報告された．資金面においては現状の募金活動についても説明された．地質学会からの強力な支援の確約が，開催の大きな要素としてあることと，地学オリンピック日本委員会は，その点を本会に期待していることが説明された．
　検討の結果，地質学会としては，開催する場合にはできる限りの支援をする，という程度の事しか言えないのではないか，また，この件に関しては，本日の理事会の議題にもなっているので，議案の目的をはっきりして提案することとした．開催の可否は連合大会頃に決まる予定．開催オプションとしては，予定通りつくばで行う，西日本に場所を移して行う，日本の後に予定されているインドと交代してもらう，開催を返上する（代替地を見つける交渉）がある．
４．理事会議案確認

Ⅱ　**報告事項**
＜外部の賞，共催・後援依頼等＞
１．山田科学振興財団助成金への推薦：長谷川卓会員，小宮剛会員の２名を推薦した．指摘された修正等については，応募概要を確認の結果問題なしということであった．
２．日本学術振興会賞（５/18-20応募期間，地質学会へは５/６日まで），日本学術振興会育志賞（６/15-17応募期間，地質学会へは５/末日まで）の推薦依頼 → HP，Newsに掲載
３．朝永信一郎記念第６回「科学の芽」賞（筑波大学）後援依頼→例年通り承諾
＜会員の動静＞
１．今月の入会者（５名）
　正会員（２名）　松岡稔幸，小林真生子
　正〔院割〕会員（３名）　井上貴至，竹中諒，橋本陽介
２．今月の退会者（16名：３月執行理事会後の届出分．３月末退会手続き済み）
　正会員（12名）　菊池伸輔，持田裕之，金城善美，水野　毅，新田篤司，宮崎洋明，荒井優祐，松澤　希，成毛志乃，柴本芳一，加藤清次，木村政昭
　正〔院割〕会員（４名）明神拓也，野本哲也，齊藤　誠，有馬和宏
　※2011年３月末退会者・除籍者一覧
３．今月の逝去者　なし
４．３月末日会員数
　賛助：26　名誉：73　正会員：3,942（正会員：3,725　正（院割）会員：193
　正（学部割）会員：24）　合計　4,041（昨年比：76）
５．2011年度永年（50年）会員顕彰者11名
　今永　勇　井本伸広　岩松　暉　小林治朗　中村保夫　名取博夫　野村　哲　古川博恭　真野勝友　渡辺　勇　渡辺　亨

---

## 2010年度
## 第12回執行理事会議事録

期日：2011年５月14日（土）11:00～13:00
場所：神奈川県立生命の星・地球博物館　講義室
出席者：久田副会長　渡部副会長　藤本常務理事　井龍　小嶋　石渡　坂口　高木　内藤　中井　西　平田　藤林　星　向山　山口　各理事，事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：宮下会長　齋藤副常務理事
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者16名，委任状２名，合計18名の出席.
＊前回議事録の承認

Ⅰ　**審議事項**
１．受託業務に係る旅費・謝金規則の内容検討について（向山）
　受託研究業務の旅費・謝金の見積りの根拠を明らかにすることが目的であり，実際の学会からの支払いについては実態に応じた柔軟な対応を可能とする．謝金については支払い基準を見積基準額とすることで明示する．
２．地質学雑誌編集規則の改正
　学会から多様な出版物が出され，それに応じて編集出版規則ができているので，従来の編集規則を廃止し，地質学雑誌に対応した地質学雑誌編集出版規則として新たに制定する．４月理事会で承認された短報廃止に対応したほか，引用文献の書式や数式の書き方なども細則として制定する．
３．選挙管理委員会委員候補者の選出
　候補者を検討し，本人の確認をとることとした．
４．総会議案の確認
　１号議案　2010年度理事会報告（事業報告参照）
　２号議案　2010年度事業報告・決算報告（監査結果）
　３号議案　2011年度事業計画
　事業計画骨子については，国際地学オリンピックつくば大会の状況に応じた修正をする．
　リーフレットの詳細は削除
　４号議案　2012年度予算案
　５号議案　名誉会員の選出
５．５/21理事会の審議事項について
＊審議事項
・各賞選考委員の選出
・選挙管理委員会委員の選出
・地質学雑誌編集出版規則の制定
・受託業務に係る取扱規則，旅費，謝金細則について
＊報告事項
・東日本大震災対応作業部会の報告
６．東日本震災対応について
　作業部会の報告を受け，次回の理事会で作業部会報告を受けて，今後どのように扱うかを議論する．提言骨子で書かれている，地盤や汚染の問題や，教育・人材育成の問題を今後重視していく．

Ⅱ　**報告事項**
**（1）運営財政部会：総務委員会**
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
１．2011地球環境保護　土壌・地下水浄化技術展：土壌環境センター，フジサンケイビジネスアイほか主催（８/31-９/２）の協賛依頼を承諾
２．「地質の日フィールドワーク～紀の松島クルージングセミナー」：環境省近畿地方環境事務所（５/14）の後援依頼を承諾
３．第42回特別展「来て！見て！感激！大化石展」：大阪市立自然史博物館（７/２-８

/28）の後援依頼を承諾
4．第55回日本粘土科学討論会：日本粘土学会（9/14-16）の後援を承諾
5．「地質情報展2011みと」：産総研よりの共催依頼を承諾
6．青少年のための科学の祭典2011：日本科学技術振興財団（5/14-2012/3/31）の後援を承諾
7．2012/1/1～2013/12/31開催の藤原セミナーの募集：自然科学の全分野の基礎的なテーマが対象，応募は国内の学術研究機関に所属する研究者，国内での開催，1件1200万円以内　2件まで，所属組織長経由による応募，締め切り7/31（地質学会の締め切り6/30）→HP，Geo-flash，Newsに掲載
8．平成23年度日本学術振興会「育志賞」：受付期間6/15-17，「学術振興会賞」の募集：受付期間6/18-20→HP，Geo-flash，Newsに掲載
＜その他＞
1．海上保安庁より「海底地形名の名称に関する検討会」のために海底地形名称の提案募集案内
2．賛助会員㈱ダイヤコンサルタント役員交代挨拶：新社長　浅野忠男氏
3．賛助会員関東天然瓦斯開発㈱役員交代挨拶：社長　吉井正徳氏
4．（社）日本原子力学会は一般社団法人日本原子力学会と名称を変更
5．学術振興会より，平成24年度採用分特別研究員等の採用申請受付期間をそれぞれ1カ月延期するとの通知があった．HPの記事を修正
6．2011夏休みサイエンススクエア：国立科学博物館の出展案内→地学教育担当中井理事，社会教　育担当藤林理事に回送
7．機関別認証評価に係わる専門委員（23年度実施分）の選考について，本会からの推薦については選考見送りとなったことが，大学評価・学位授与機構からあった．
8．23年度「環境月間」,「環境の日」の定規実施についてのアンケート→本会は実施なし．
＜会員＞
1．今月の入会者（18名）
正会員（5名）　金　永彬，三好雅也，市橋弥生，新井隆太，加藤和浩
正〔院割〕会員（13名）池内瑠美，太田萌美，吉野友美，小山俊之，土居真輔，末岡茂，野々村奈美，山口温美，酒井邦裕，上形由布子，薗田哲平，村田崇行，荒巻美紀
2．今月の退会者（2名）
正会員（2名）岡野　誠，小林博文
3．今月の逝去者（7名）
名誉会員：松本徑夫（3/30），須鎗和巳（4/2），柴田松太郎（4/3），小高民夫（4/12），中世古幸次郎（4/21）
正会員：横山良哲（2/1），玉木賢策（4/6）
4．4月末日会員数
賛助：26　名誉：68　正会員：3,954（正会員：3,843　正（院割）会員：109
正（学部割）会員：2）合計　4,048（昨年比 － 79）
＜会計＞
・会計監査は5月10日に，青野監事，山本監事のもとで実施された．
・情報展・市民講演会にたいする科研費交付の内定（140万円）があり，2011年度予算に反映．
＜事務局震災整理＞
・4月18日～20日，26日の4日間にわたり，早稲田大学の学生さんたちの協力で，破損什器の解体廃棄，書籍等の整理廃棄を行った．未整理部分がまだ残されているが，とりあえず会議スペースを確保した．
**(2) 広報部会：広報委員会（坂口）**
**(3) 学術研究部会：行事委員会（星）**
・水戸大会について　全体の日程やシンポジウムの内容について報告された．
**(4) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）**
1）編集状況報告（5月12日現在）．
・2011年度投稿論文　総数23編［論説11（和文10，英文1），短報3（和文2，英文1），ノート5（和文5），報告4（和文4）］口絵3（和文3）
・査読中43編　　受理済み　17編（うち通常号5　特集号12）
2）編集規則改正の提案（→審議事項）
**(5) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会　（井龍編集委員長）**
・編集状況の報告
**(6) 社会貢献部会（藤林）**
1）地学教育委員会（中井）
1．今年度の高校地学教員採用試験の状況
2．教員養成に関する中教審の動き－続報
2）地質の日
・フォトコンテスト　表彰式
・神奈川県立生命の星地球博物館との共催事業
講演会（神奈川県立生命の星地球博物館との共催）
講師　山口耕生
「微生物はいかにして地球環境を変えてきたか？～石から探る地球環境の進化史」
**(7) ジオパーク支援委員会**
1．ポスターとともにパンフレットを作成，学会HPからpdfファイルでダウンロード可能．
2．日本ジオパーク委員会（JGC）
・今年の日本ジオパークネットワーク加盟申請は，次の6地域
男鹿半島・大潟，磐梯山，茨城県北，秩父，下仁田，白山手取川
・世界ジオパークネットワーク（GGN）加盟申請（国内審査）は次の1地域隠岐ジオパーク（なお，今年GGNから視察・審査を受けるGGN加盟申請中の地域は室戸ジオパーク）
5月23日（月）の連合大会のジオパークセッション後半に，上の7地域についてJGC主催の公開プレゼンテーションを実施し，その後JGCで書類・プレゼン評価を行う．
3．ジオパーク関連カレンダー
・第2回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会2011年9月29日～10月1日
・第5回ジオパーク国際ユネスコ会議　島原半島ジオパーク　2012年5月12日～15日
**(8) オリンピック支援委員会**
・NPO日本地学オリンピック委員会より，2012年国際地学オリンピック日本大会は，開催地返上との連絡があった．

---

## 2011年度
## 第1回執行理事会議事録

期日：2011年6月18日（土）13:00～17:00
場所：地質学会事務局
出席者：久田副会長　渡部副会長　藤本常務理事　斎藤副常務理事　井龍　小嶋　石渡　坂口　高木　内藤　中井　星　向山　各理事，事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：宮下会長　西　平田　藤林　山口
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者13名，委任状5名，合計18名の出席．
＊前回議事録の承認

**Ⅰ　審議事項**
1．東日本震災対応について：藤本理事
・東日本大震災の災害復旧事業部会を作る．会員を主体とし，地質学会の震災に対する作業部会報告書に関連した内容で，被災地に直接的に成果を還元できる調査研究に助成する（来年度の大阪大会での発表を求める）．
・標本レスキューについては，南三陸町魚竜館への対応（移動・保管）を中心に，情報収集中．地質学会として行うにふさわしい内容は何か，今後被災地と詰めていく．われわれが資金を出すことによって他の資金の呼び水になる方向が望ましい．
・被災地の学校教育支援等の要請が一般的なものだけ，防災教育は地惑連合でも議論されているが，連携はまだ行っていない．
・応用地質部会として，水戸の地質情報展会場（武道館）でポスター展示を行う．
・執行理事会・関東支部幹事会の共同提案で「東日本大震災と日本地質学会の責務」という夜間小集会を行う予定．作業部会のフォローアップや災害復旧事業の進捗等の内容を考えている．
2．水戸大会（合同学術大会）における優秀ポスター賞について：星理事
今回は「地質学会担当のシンポジウム，セッションで発表された会員によるポスター，すなわち地質学会のシステムで申し込まれた会員によるポスター」を対象とする．
3．英文の編集・出版規則：「数式の書き方」細則の英文化について：小嶋理事

英文化（A４，３-４ページ）を行う．合見積もりを取った上で発注する．

学会の英文ページからリンクして，英文の編集規則類がある事を見えやすくする．

４．特集号の論文の早期公開の実施について：小嶋理事

「早期」公開はHP上の会員ページで行う．要旨はフリーで公開する．なお印刷後３か月たつとJ-Stageで一般公開になる．

５．小藤文次郎賞の短報枠：今年度小藤賞の対象とならなかった短報の扱いについて：小嶋理事

小藤賞の対象となる短報が残っているうちは，小藤文治郎賞とは別に短報を対象とする小藤賞が並立して存在することを確認した．この認識を各賞選考委員会に伝える．

６．IAR関係：井龍理事

・W-B社のIAR担当者の変更に関して．
引き継ぐ時間がないまま，担当者が変わった．この様な状態では，パートナーシップを持って国際誌を運営できないので，編集委員会はW-B社にスムーズな引き継ぎができるよう申し入れる予定．学会の名前で出すときはドラフトを回覧する．

・IAR20周年記念（?）招待論文および企画に関して
Vol.20-1 の招待論文は大幅にページ超過となる予定．20-2にもう１編招待論文が掲載される可能性がある．

７．選挙関係：井龍理事

地質学会の選挙は代議員（社員）を選んで，その中から役員選挙を行うシステム．理事選挙時の立候補者の抱負・経歴等を選挙後に一般会員に対しWeb等で公開して透明性を高める方向で検討する．

８．部会・支部の連絡ツールとしてSNS（Social Net Service）導入：坂口理事

導入することを了承した．

９．地学オリンピックの広報活動のためのコンテンツ制作：坂口理事

地学オリンピック支援委員会と広報委員会でコンテンツを作成し，それを地学オリンピック日本委員会も使用できるような方向で進める．

10．その他

１）連合共同声明案について
基本的なところは一次案を了承し，最終案に向けて検討する．

２）連合経由：「科学技術に関する基本政策について」見直し案に関する意見募集６/14-６/26
東日本の大地震を受けて第4期科学技術基本計画の再検討を行うとのこと．
作業部会報告の内容を盛り込んだ意見を出すことにする．藤本理事が原案作成後メールでの検討．

## Ⅱ　報告事項

### (1)　運営財政部会：総務委員会

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

１．地球化学会からの年会（９/14-16，北大）の共催を承諾した．

２．朝日新聞社・テレビ朝日主催の「第九回高校生“科学技術チャレンジ”　ジャパン・サイエンス＆エンジニアリング・チャレンジ～JSEC2011～」の後援名義使用依頼があり，例年のとおり承諾した．

３．新潟大学理学部から２件の企画展示（会期：７/９-８/31）について講演依頼があり承諾した．

・糸魚川ジオパークの化石展：新潟大学駅南キャンパス　ときめいと

・佐渡の大地と海：新潟大学旭町学術資料展示館

＜その他＞

１．文科省から「科学技術賞」，「若手科学者賞」の推薦依頼：締め切り7/19，学会への応募締め切りは6/30 →HP，News，Geo-Flash掲載

２．尾瀬保護財団より「第15回尾瀬賞」の募集，募集期間４/１-８/31 →HP，News，Geo-Flash掲載

３．第33回沖縄研究奨励賞の推薦依頼：締め切り9/30，学会への応募締め切りは８/31 →HP，News，Geo-Flash掲載

４．挨拶状：日産財団は４月より，旧財団法人から公益社団法人に移行．

５．挨拶状：全地連新役員就任，新会長成田　賢（応用地質社長）

６．挨拶状：石灰石鉱業協会役員就任，会長　渡邊 穣

７．挨拶状：化学情報協会は４月より旧社団法人から一般社団法人に移行．

８．挨拶状：資源素材学会役員交代：新会長中村　崇

９．挨拶状：土木学会役員交代：新会長　山本卓朗

10．石油資源開発㈱：組織改編

11．地質学雑誌の貸出：TBSテレビ関係の道具会社（有）オルフ（代表 若山 博 氏）より，秋のドラマの道具として地質学雑誌等の借用の打診があり，確認の上貸出を了承した．

12．JABEEの定時総会開催（６/23）代理出席　橋辺

＜会員＞

１．今月の入会者（79名）→
正会員12名　院割57名　学部割　10名

２．今月の退会者（正１名）
野村香織

３．今月の逝去者（正１名）
山田　純（５/19）

４．５月末日会員数
賛助：26　名誉：73　正会員：3,966（正会員：3,844　正（院割）会員：120　正（学部割）会員：２）合計　4,065（昨年比　－64）

５．50年顕彰会員11名を10名に訂正：小林治朗会員，ファイルの入会年が間違いであったことが本人の申告により判明

６．学会表彰（楯）ならびに功労賞（賞状）の顕彰文案について検討

＜会計＞

１．受託研究について

・委託機関より委託内容を示した仕様書と見積もり要領が送付され，連携事業委員会にて諾否を検討し，受託の方針を決定した．

・学会規程に基づいて見積書（案）を提出したが，委託機関において書式等について点検中．

２．名誉会員の顕彰用メダルおよび50年会員顕彰用バッチの作製について
名誉会員用小藤メダルの数が不足，50年会員用バッチの数が不足．

### (2) 広報部会：広報委員会（坂口）

Geo-Flashとニュース誌は順当にでている．

### (3) 学術研究部会：行事委員会（星）

１）水戸大会報告

２）日本地質学会2013年仙台大会実行委員会（案）

・実行委員長：石渡，庶務：西，会場・渉外：中村（教），広報：高嶋・佐々木
会計：海保・鈴木（紀），プログラム：長濱．佐藤　懇親会：中森・山田
巡検：平野・高嶋・遅沢（今後の人事異動などにより変更の可能性があります）

・日時　2013年９月13日（金）～16日（月）（余裕をみて４日間予約）

・場所　東北大学川内北キャンパス講義棟

・来年度以降の地質情報展について，産総研としては第３期中期計画にも盛り込み継続して実行する方向で考えている．

・2014年年会は西日本支部で開催地検討中．2015年は信州大学で行うことが中部支部で決定された．

### (4) 学術研究部会：国際交流委員会（石渡）

水戸大会への学術交流国等，海外からの来訪者の情報を予め把握して，事前準備を行いたいので，情報提供をお願いしたい．

### (5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（小嶋編集委員長）

１）今月の編集状況（６月13日現在）．
2011年度投稿論文　総数27編［論説14（和文13，英文１），短報３（和文２，英文１），ノート５（和文５），報告５（和文５）］口絵３（和文３）査読中42編　受理済み16編（うち通常号８　特集号８）

２）短報の取扱い：過渡期の編集方針を下記のようにしている
①現在編集中の短報は，査読者を増やすなどの措置は行わず，そのまま編集を続け，受理されたら論説として掲載する．その際，著者には日本語要旨をつけてもらう．
②今後，短報として投稿されてきた論文に対しては，著者に事情を説明し論説として扱う．著者が承諾すれば，日本語要旨をつけてもらい再投稿をお願いする．

### (6) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会　（井龍編集委員長）

・編集状況の報告
手持ちの受理原稿が不足している．2011年（20巻）の３号以降の受理原稿が足りていない．半年で13編しか投稿がない．

**(7) 社会貢献部会（藤林）報告無し**
**(8) ジオパーク支援委員会　報告無し**
**(9) 地学教育委員会（中井）報告無し**
**(10) オリンピック支援委員会**
・イタリア大会への代表４人が選ばれた．
・2012年国際地学オリンピックは日本に代わってアルゼンチンで行うことになった．
　スペイン語圏ではオリンピック活動が行われていたので，無理なく引き受けられた．
・2012年日本大会の中止に伴い，すでに寄せられている協賛金については返却する方向．
**(11) 地質災害委員会**
・島根大学東日本大震災支援・調査グループ：
　責任者；石賀裕明・三瓶良和・酒井哲弥
　地球資源学科有志　生物資源科学部　野中研究室
　調査対象地域：仙台市宮城野区，名取市，岩沼市の海岸地域
　津波ヘドロ堆積物の調査
**(12) 環境地質部会ほか主催のシンポジウム「人工改変と東日本大震災」**（６／４開催明海大学）について環境地質部会長（楡井）より報告．参加者は200人超，市民が多く参加し，地学重視の必要性についての発言もあったとのこと．

## 会員の声

### 学術目的とはいえ・・・

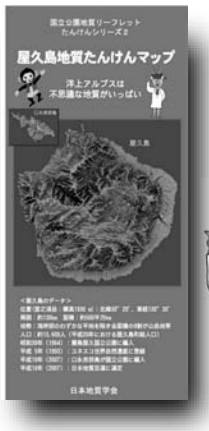
場所：延岡市東海海岸，延岡衝上断層の，断層ガウジ

気になるのはサンプリングの穴です．この近くにシュードタキライとの露頭がありますが，そちらの方がまだひどくカッターの跡があり，ほじくり返されています．どこかの大学だろうと思いますが，今少し自然保護を考えていただきたいと思います．これから先この現場を見る人がどれほどいるのか，その人たちは考えなかったのでしょうか．学術目的とはいえ，自然破壊です．憤慨に堪えません．

（足立　富男）

国立公園リーフレット　たんけんシリーズ第2弾

**屋久島地質たんけんマップ**
**ー洋上アルプスは不思議な地質がいっぱいー**



かわいいキッキくんとシカノスケ博士が
屋久島の地質をわかりやすく紹介してくれます。

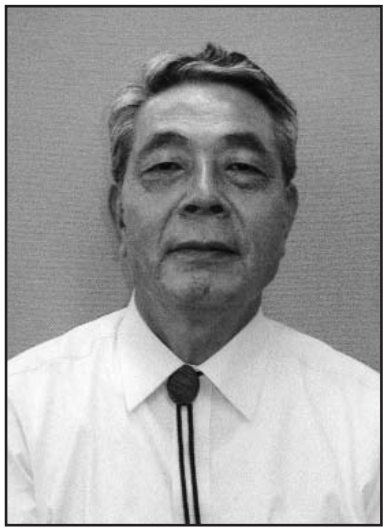
編　著：日本地質学会地学教育委員会
　　屋久島地学同好会
発　行：日本地質学会
B2版　12折　両面フルカラー印刷

会員頒価 300円
※20部以上ご注文の場合は割引あり

シリーズ1
「箱根火山たんけんマップ」も
好評発売中！

購入希望の方は、学会事務局まで．
e-mail:main@geosociety.jp　電話:03-5823-1150

追　悼



# 安間　恵さんのご逝去を悼む

日本地質学会正会員安間（あんま）　恵（けい）さんは，2011（平成23）年7月15日急逝されました．享年68才でした．

突然のご逝去に対し，心からお悔み申し上げるとともに，ご冥福をお祈り申し上げます．

故安間　恵さんは静岡県浜松市（旧浜名郡和田村）出身，1967年3月島根大学理学部（地質学科）を卒業，同年東海大学大学院海洋資源学専攻修士課程に進まれました．その後，1972年3月に同博士課程（博士課程在籍中，米国アラスカ大学に留学）を終え，同年4月から1982年9月まで東海大学海洋学部海洋資源学科（現静岡市清水区）の専任講師を務められ，1982年10月川崎地質（株）に移られました．

大学院生時代を含め，東海大学におられた15年，その後現在にいたるまで同僚として，友人として，親しくお付き合いさせていただきました．故安間　恵さんの足跡，お人柄等を紹介し，追悼したいと思います．

安間さんが清水にこられた1967年は東海大学海洋学部創設後6年目に入った年でした．当初水産資源開発を主目的として設立された海洋資源学科では，海洋資源を海洋物理学，海洋化学，海洋地質学の3分野（コース）から探求するという方針が確立され，それに向けた教育体制が軌道に乗り始めた時代でした．この年の4月から学部の上に大学院修士課程が創設され，安間さんは修士課程の1期生でした．同級生が海洋学部2期生で，安間さんも海洋学部2期生かと思われるほど周囲と打ち解けておられました．

島根大学で地質学を学ばれた（指導教官・故三位秀夫先生）安間さんは東海大学大学院において唯一の他大学卒業生であり，海洋資源学科（地質コース）においても，当時4年生（3期生）以降の学部学生の先輩としても大変貴重な存在でした．安間さん自身は地質学を基礎に海洋の地球物理学的なテーマに強い意欲を持っておられました．具体的には地磁気・地殻熱流量観測を同年就航した東海大学丸二世（故佐藤孫七船長）や気象庁の観測船に乗船して実践しておられました．佐藤孫七船長は長年海上保安庁水路部で活躍された「観測の神様」とも呼ばれた名船長で，安間さんはこの時代に佐藤孫七船長の指導を受け，海洋調査の心構えと基本となる技術を学ばれたのだと思います．

大学院博士課程を終えた安間さんは1972年に海洋学部教員になり，1982年9月までの10年間在職されました．当時の海洋資源学科は，内外で海洋開発の気運が高まる中，海洋地質学コースを母体に，1970年，海洋底の資源開発を目的とする“新”海洋資源学科（学生定員80名）に改組され，海洋地質学，物理探査学，資源開発の3面からの研究・教育体制がとられました．星野通平，故杉山隆二，故早川正巳教授以下10名の教員が，地質学・地球物理学・海洋学を総合した海洋資源学の創造を目指して，研究・教育活動を繰り広げ，充実した時代を迎えます．

安間さんは静岡県出身かつ理学部地質学科出身の若手教員として，学生の地質野外調査をはじめ，地元の諸事情に精通した広範な学生教育を展開され，活躍されました．安間さんが中心となって駿河湾団体研究会が設立され，現在も受け継がれています．安間さんの陸上地質調査の指導を受けた多くの卒業生が企業等で活躍しています．

一方，海洋資源学科が行ったほとんどの海洋実習・調査航海にも乗船・参加し，地磁気観測，地殻熱流量測定など，地球物理関係の調査を担当し，多くの学生を育成されました．この時代，海洋資源学科をあげて行った調査研究に「小笠原海台の地質学的・地球物理学的研究」，「西之島新島調査」，「第一鹿島海山の地質学的・地球物理学的研究」がありますが，安間さんはいずれにおいても，中心的なメンバーとして活躍されました．

このように，5年の院生時代を含め，東海大学におられた15年間，安間さんは3期生から20期生までの約1,500名の学部学生の授業・実験・実習・卒業研究に携わり，さらに50名を超える院生を指導されました．草創・発展期の海洋資源学科にあって，陸に海に，研究に学生教育に，持てる力を発揮して学科づくりに大きな貢献をされました．

安間さんは「日本の自然・Japan and its Nature」（湊正雄監修，平凡社，1977）の執筆者，図版・写真選定委員でもあり，執筆の過程で，黒潮がはこんで分布を広げた花・ハマユウを求めて，伊豆半島から御前崎までの駿河湾岸を車でまわったことを思い出します．植物全般についてその博識ぶりに驚いたものでした．その後，清水の海洋学部キャンパスには「黒潮の花」ハマユウが植えられ，毎年7月から8月にかけて，白い花を咲かせています．

安間さんは1982年の10月，活躍の場を東海大学から川崎地質（株）に移されました．川崎地質（株）では，東京事務所課長，次長（唐津事務所長，海洋調査部長），取締役（海洋調査部長）の役職を歴任され，2003年からは参与として社業の発展に尽力されました．

安間さんは若手社員に海域の調査方法や解析方法の指導をされたほか，技術者として担当した主な仕事は，対馬西方海域の地質図作成，中海・宍道湖の地形・底質・地質調査，琵琶湖でのマルチチャンネル音波探査と湖上ボーリング，東京臨海副都心開発のための地質調査，関西空港2期工事のための海域調査，大都市周辺海域活断層調査（伊勢湾・東京湾）等があります．

1985年3月には，学位論文「第四紀堆積盆形成史の解明とその水文地質学的意義」により母校東海大学から学位（理学博士）を授与されました．

南極海での資源調査（石油公団，1995年，白嶺丸）に乗船参加されたり，河川における塩水楔探査システムを大学研究者と共同で技術開発（1999年）するなど，必ずしも民間コンサルタントの業務の枠にとらわれない活動を活発にされました．これらの海洋調査（水路業務）への貢献に対して2003年7月，海上保安庁長官賞を受賞されました．

川崎地質（株）に移られてからも，東海大学の卒業研究等，学生教育にさまざまな形で協力していただきました．

一方，日本地質学会では1985～1986年度，1987～1988年度，1989～1990年度，2005～2006年度評議員を務め，執行委員会の行事委員（1985～1986年度，1987年度，1989～1990年度）として全国を奔走し，学術大会の開催等に尽力されました．海洋調査協会の理事を務められたり，関連学会・協会の発展にも多大な寄与をされました．

安間さんはその温厚な性格と，持ち前の積極性と懐の深さから多くの人々に慕われ，大学，研究所，官庁，民間コンサルタントに縦横の人脈を持っておられました．教育者・研究者・技術者・企業人としての活躍は言うまでもありませんが，組織を越えたマネジメント力は抜群でした．

今年７月末には会社を退職される予定だったそうです．退職後，どのような自適の生活を描かれ，実践しようとしておられたのか，周囲も楽しみにしていただけに突然のご逝去は残念でなりません．

現在までのご努力に敬意を表し，感謝したいと思います．あらためて安間　恵さんのご遺徳を偲び，ご冥福をお祈り申し上げます．

なお，ご遺族はご夫人安間慶子様と４人のお嬢様です．

（佐藤　武）

---

# CALENDAR

**2011.9～**

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．

★印は，日本地質学会行事．

## 2011年

### 9月　September

**★日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会（水戸大会）**

９月９日（金）～11日（日）
場所：茨城大学ほか
大会HP
http://www.geosociety.jp/mito/content0001.html

**○東レ先端材料シンポジウム2011**

９月14日（水）10:00～17:00
場所：東京国際フォーラム ホールＡ（千代田区丸の内３-５-１）
問い合わせ先：東レ先端材料シンポジウム・展示会事務局
Tel：03-5574-0132（平日10:00～12:00, 13:00～17:00）
http://東レ先端材料シンポ.jp

**○第55回粘土科学討論会**

共催：日本地質学会
９月14日（水）～16日（金）
場所：鹿児島大学共通教育棟３号館（鹿児島市郡元1丁目21-35）
問い合わせ先：第55回粘土科学討論会実行委員会 河野元治
kawano@sci.kagoshima-u.ac.jp
詳細：http://www.geosociety.jp/outline/content0086.html#2011-9

**○第61回東レ科学講演会**

後援：日本地質学会
９月16日（金）17:00～20:00
場所：有楽町朝日ホール（千代田区有楽町２-５-１有楽町マリオン11階）
http://www.toray.co.jp/tsf/index.html

**○第137回深田研談話会**
**世界一稠密高精度地震観測網で見る日本列島の様々な地震**
**―2011年東北地方太平洋沖地震はどう考えるか―**

９月30日（金）15:30～17:30
会場：深田地質研究所　研修ホール（文京区本駒込２-13-12）
http://www.fgi.or.jp/

### 10月　October

**○第3回ジオ多様性フォーラム　地質，地形，測地，地震，水，文明などからみたジオ多様性**

10月７日（金）～８日（土）
場所：JAMSTEC東京事務所（千代田区内幸町2-2-2-23F）
問い合わせ先：矢島道子 pxi02070@nifty.com

**○原子力総合シンポジウム2011**
**「原子力安全の再構築―東日本大震災を踏まえて―」**
**（共同主催日本地質学会）**

10月19日（水）
場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木７-22-34）
http://www.aesj.or.jp/

**○山陰海岸ジオパーク国際学術会議「城崎会議」**

10月29日（土）～31日（月）
場所：城崎温泉 西村屋ホテル 招月庭（兵庫県豊岡市城崎町湯島1016-2）
参加登録締切：10/14（金）
http://sanin-geo.jp/modules/news/index.php?page=article&storyid=51

### 11月　November

**○2011 PERC Planetary Geology Field Symposium**

11月５日（土）～６日（日）
場所：北九州国際会議場
巡検：11月７日（月）～９日（水）
http://www.perc.it-chiba.ac.jp/meetings/pgfs2011/
問い合わせ先：千葉工業大学惑星探査研究センター pgfs2011@perc.it-chiba.ac.jp

**○東海地震防災セミナー2011（第28回）**

11月10日（木）13:30～16:00
場所：静岡商工会議所静岡事務所５階ホール（JR静岡駅北口西側）
問い合わせ先：　土研究事務所（土　隆一）
Tel：054-238-3240　Fax：054-238-3241

## 2012年

### 7月　July

**○International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2012（ZMPC2012）**

（2012年ゼオライトおよびその類縁化合物に関する国際会議）
日本地質学会協賛
７月28日（土）～８月１日（水）
場所：広島市アステールプラザ（広島市中区加古町４-17）
http://www.zmpc.org/

# ＜会員名簿の訂正・変更・登録についてのお願い＞

◎誤記・変更・追加などありましたら，楷書ではっきりと，アパート・下宿等は忘れずに書いてください．団地名など省略できる場合は省略形でお願いいたします．会員番号は雑誌の宛名ラベル左下の7桁の数字です．

◎名簿に必ず掲載する項目は※印つきの項目(氏名、所属〔ない場合は掲載しない〕)です．

◎名簿掲載を選択できる項目は※印のない項目全部についてです．

**名簿への掲載を拒否する項目がある場合には，選択項目の □ 欄にチェック（✓）を付けてください．**

◎基本的には郵便物の受け取り先が名簿に掲載される住所です．受け取り先が勤務先のかたはできるだけ，郵便物が確実に届く範囲（部課名）までご記入願います．受け取り先を変更する場合は，欄外の受取先のいずれかに〇をつけてください．

日本地質学会事務局　御中

FAX：03-5823-1156

E-mail ： main@geosociety.jp

※印の項目(氏名、所属)は掲載必須項目です．**掲載を拒否する選択項目には □ に チェック（✓）をつけて下さい．**

| 会員番号 | （　　年　　月　　日届） |
|---|---|
| | **名簿掲載アンケート：会員名簿訂正・変更・登録カード** |
| ローマ字表記 | |
| ※　氏　　名 | 生年月日　19　　年　　月　　日生 |
| **出身校** | 最終学歴について掲載を**拒否する場合**には左側の項目**「□ 最終学歴」にチェックを**，在学中のかたは，所属先の身分（学生・院生・研究生等）について**掲載を拒否する場合**には**「□ 所属先の身分」にもチェック**を付けてください． |
| □ 最終学歴<br>□ 所属先の身分 | 学校　　年　月　卒・在学<br>大学　　学部　　年　月　卒・在学<br>大学　　研究科　修士課程 ・ 博士課程　　年　月　修・在学<br>大学　　研究生・その他（　　） |
| ※　**所属先**<br>所属先部課名まで記入 | |
| □ 所属先部課名 | **所属先は郵便物が確実に届く範囲（部課名）までをご記入下さい**（掲載の可否に関わらず）．<br>所属先部課名について掲載拒否を希望する場合には左側の□にチェックを付けてください． |
| □ 所属先住所 | 〒 |
| □ 所属先電話・FAX | 代表 ・ ダイヤルイン<br>TEL　　－　　－　　．FAX　　－　　－ |
| □ 自宅住所 | 〒 |
| □ 自宅電話・FAX | TEL　　－　　－　　．FAX　　－　　－ |
| □ E-mail Address | 自宅・所属先のどちらかを登録． |

郵便物の受け取り先（いずれかに〇）　**自宅　・　所属先**

**＜＜専門部会と興味専門分野について＞＞**（該当する項目に〇印を付けて下さい）

**◆　専門部会への登録をお願いします．所属希望の部会を３つまで選択することができます．**

1．地域地質　2．層序　3．堆積地質　4．現行地質過程　5．海洋地質　6．構造地質　7．岩石
8．火山　9．応用地質　10．環境地質　11．情報地質　12．古生物　13．第四紀地質

**◆　あなたの興味専門分野を教えてください．３つまで選択することができます．**

1．層位　2．堆積・堆積岩　3．古生物　4．構造地質　5．火山・火山岩　6．深成岩　7．変成岩　8．鉱床地質（金属・非金属）
9．鉱床　10．鉱物　11．燃料地質　12．地熱　13．第四紀　14．環境地質　15．都市地質　16．土木地質　17．土質工学
18．水文地質　19．探査地質　20．土木工学　21．情報地質　22．地震地質　23．海洋地質　24．地球物理　25．地球化学
26．地質年代学　27．地理　28．地学教育　29．考古　30．その他　40．地球惑星

**締切　2011年10月７日（金）**　詳細はNews誌 Vol.14－６月号をご覧下さい

（金融機関用）　　平成　　年　　月　　日

# 預金口座振替依頼書
# 自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

| 収納代行会社 | SMBCファイナンスサービス株式会社 | 振替日 | 6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日） |
|---|---|---|---|

| （フリガナ）<br>申込人名 | | 申込人住所 | 〒<br>☎ |
|---|---|---|---|

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

**ゆうちょ銀行以外の銀行**

| 金融機関コード | | 支店コード | | 預金種目（どちらかに○印） | 口座番号（右詰めでご記入ください。） |
|---|---|---|---|---|---|
| 銀行 信用金庫 組合 | | 本店 支店 出張所 | | 1. 普通<br>2. 当座 | |
| （フリガナ）<br>口座名義人 | 法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。 | | | 金融機関お届け印 | 印 |

捨印（ゆうちょ銀行を除く）

**ゆうちょ銀行**

| （フリガナ）<br>口座名義人 | 法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。 | ゆうちょ銀行お届け印 | 印 |
|---|---|---|---|

| 種目コード | 契約種別コード | 通帳記号 | | 通帳番号（右詰めでご記入ください。） |
|---|---|---|---|---|
| 1 6 6 | 3 0 | 1 0 | の | |

| 払込先口座番号 | 00110－5－58830 | 払込先加入者名 | SMBCファイナンスサービス株式会社 |
|---|---|---|---|

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

| 収納企業名 | 一般社団法人 日本地質学会 | 料金等の種類 | 会費等 |
|---|---|---|---|
| 契約者番号 | 委託者コード 1 8 4 7 6 0 0 0 | 顧客コード 0 0 0 0 0 | |

## 一預金口座振替規定一　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

**金融機関使用欄**

（不備返却事由）
1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違
2. 記載事項等相違
　店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義
4. その他（　　）

備考

| 検印 | 印鑑照合 | 受付印 | |
|---|---|---|---|
| | | | |

取扱店日時印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱決済ビジネス事務部
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

80円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内
一般社団法人日本地質学会

御中

オリ線

住所
氏名

オリ線

裏面のりしろ③

キリトリ線

裏面のりしろ②

# READING THE ISOTOPIC CLOCKS

## 地質年代の測定

御社の調査・研究に必要とされる信頼出来るデータおよび特別なご注文については、経験と実績の豊富な当社へおまかせ下さい。

- K/Ar 年代測定
- Rb/Sr 年代測定
- $^{14}C$ 年代測定
- 堆積速度の査定
  ($^{210}Pb$, $^{137}Cs$, $^{7}Be$)

堆積速度の査定についての詳細は下記のURLをご参照下さい。
http://www.iadc-dredging.com/terra-et-aqua/2000/78-4.htm

- Boron11/10同位体測定


ジオスペース・サイエンス株式会社

〒170-0013
東京都豊島区東池袋1-20-2
池袋ホワイトハウスビル　620号
TEL03-5950-3661 FAX03-5950-3662
http://www.geospace.co.jp/

# Stallard Scientific Editing

**your trusted partner in English-language excellence**

science • technology • medicine • engineering • arts　　research papers • theses • books • abstracts

**スタラード・サイエンティフィック英文校正のDr.アーロン・スタラードにお任せください．**
**貴方の地球科学の学術論文の英語をネイティブレベルの完璧な英語に英文校正します．**

**Dr.アーロン・スタラードの略歴：**

- 1999年，ジェームスクック大学（オーストラリア）において博士号（地球科学）取得．
- 2000〜2001年，日本学術振興会外国人特別研究員として静岡大学理学部に滞在．
- 2002〜2005年，カンタベリー大学（ニュージーランド）FRST特別研究員．
- 国際誌10編の原著論文．
- 固体地球科学，地震学，物理探査（リモートセンシング），古生物学，生態学，気象学，森林学，気候変動学，海洋学，環境モデリング等，地球科学と環境科学の幅広い分野での英文校正の実績．

**スタラード・サイエンティフィック英文校正について．**

スタラード・サイエンティフィック英文校正は，世界各国の英語を外国語とする研究者の方々のためのオンライン英文校正サービス会社です．ニュージーランドのネルソンから，ニュージーランド在住のネイティブスピーカーによる英文校正サービスをご提供いたします．

スタラード・サイエンティフィック英文校正は2006年にDr. アーロン・スタラードとアナベル・ボーイズ夫妻により設立されました．夫妻は，地球科学（Earth Science）と医療撮影（Medical Imaging）の専門分野でそれぞれ活躍後，日本やヨーロッパの英文校正会社にてフリーランスの英文校正者としての経験を積んで独立し，スタラード・サイエンティフィック英文校正を設立いたしました．

**スタラード・サイエンティフィック英文校正の利点をご検討下さい．**

- **迅速な対応：**スタンダードサービス4〜6日（休日を除く）；エクスプレスサービス1〜2日（休日を除く）．
- **英文校正者のエキスパート：**専門分野に精通した校正経験豊富なネイティブ英文校正者．
- **満足感、高品質を保証：**お客様が私どものサービスに100％御満足いただけるまで料金のお支払いは不要です．私どもの無料*Ask-the-Editor Service* 及び*Draft-to-Journal Guarantee*保証をご覧下さい．
- **お客様の自国の通貨でお支払い：**日本円建てによるお見積り，お支払いをお取り扱いしております．
- **お支払い方法：**日本国内の銀行口座への振込による方法とオンライン上でクレジットカードによるお支払いの方法が選択できます．

**www.stallardediting.com**

Stallard Scientific Editing, 56 Brougham St, Nelson 7010, New Zealand

Tel: +64 3 5489108　　Internet: www.stallardediting.com
Fax: +64 3 5489106　　Email: aaron@stallardediting.com